

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		専門職大学の設置						—	
設置者		ガッコウホリゾン モトヤマガクエン 学校法人 本山学園						—	
大学の名称		カヤマリョウセンモンシヨクダイガク 岡山医療専門職大学（Okayama Healthcare Professional University）						—	
大学本部の位置		岡山県岡山市北区大供三丁目2番18号						—	
大学の目的		本学は、本山学園創業の精神に則り、最新の専門知識と高度な実践技能を備え、高質なヒューマンサービスを生み出し、職業専門業務を主導できる創造性豊かな人材を育成し、社会の進歩と健康増進及び福祉の向上に貢献することを目的とする。						—	
新設学部等の目的		高い倫理観と豊かな人間力を基盤とし、最新の知識と専門技術を備え、高い実践力と新たなサービスを生みだしていく豊かな創造力を備えた理学療法士・作業療法士の育成を目的とする。						—	
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	—
	健康科学部 (Faculty of Health Sciences)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4	80	—	320	理学療法学士 (専門職)	令和2年4月1日 第1年次	岡山県岡山市北区大供三丁目2番18号	
	作業療法学科 (Department of Occupational Therapy)	4	40	—	160	作業療法学士 (専門職)	令和2年4月1日 第1年次	岡山県岡山市北区大供三丁目2番18号	
	計		120	—	480				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		岡山医療技術専門学校 理学療法学科（廃止）（△80） 作業療法学科（廃止）（△40） 西日本調理製菓専門学校 調理師科（入学定員変更）（△40）						—	
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実習	計				
	健康科学部 理学療法学科	56科目	14科目	25科目	95科目	135単位			
健康科学部 作業療法学科	56科目	13科目	23科目	92科目	135単位				

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新 設 分	健康科学部 理学療法学科	9人	1人	3人	5人	18人	0人	31人	
			(7)	(1)	(1)	(3)	(12)	(0)	(4)	
			健康科学部 作業療法学科	6	1	1	2	10	0	28
				(4)	(1)	(1)	(1)	(7)	(0)	(4)
	既 設 分	計	15	2	4	7	28	0	34	
			(11)	(2)	(2)	(4)	(19)	(0)	(4)	
			—	—	—	—	—	—	—	
			(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合 計	15	2	4	7	28	0	34			
	(11)	(2)	(2)	(4)	(19)	(0)	(4)			

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計	
	事 務 職 員		14 (14)		0 (0)		14 (14)	
	技 術 職 員		3 (3)		0 (0)		3 (3)	
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)	
	そ の 他 の 職 員		2 (2)		0 (0)		2 (2)	
	計		20 (20)		0 (0)		20 (20)	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	岡山医療技術専門 学校、イン ターナショナル 岡山歯科衛生専門 学校、西日本 調理製菓専門学 校（必要面積： 数値基準はなし）と共用
	校 舎 敷 地	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²	
	運 動 場 用 地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	
	小 計	1, 228. 85 m ²	4, 570. 76 m ²	0 m ²	5, 799. 61 m ²	
	そ の 他	0 m ²	187. 39 m ²	0 m ²	187. 39 m ²	
	合 計	1, 228. 85 m ²	4758. 15 m ²	0 m ²	5, 987 m ²	

校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	岡山医療技術専門 学校（必要面積 200㎡）、イン ターナショナル岡 山歯科衛生専門学 校（必要面積 499. 2㎡）、西日 本調理製菓専門学 校（必要面積904 ㎡）と共用
	6091. 19㎡ (3282. 27㎡)	5689. 91㎡ (8498. 84㎡)	4158. 45㎡ (4158. 45㎡)	15939. 55㎡ (15939. 55㎡)	

教室等	講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	13 室		11 室		12 室		1 室 (補助職員0人)		0 室 (補助職員0人)			
専任教員研究室			新設学部等の名称				室数				—	
			健康科学部研究室				28 室					
			教育研究室				1 室					
			健康科学部実験共同研究室				1 室					
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	—
	健康科学部		9,723 [338]		1413 [7]		1408 [7]		16	2,815	57	
			9,723 [338]		(1413 [7])		(1408 [7])		(16)	(2,815)	(57)	
	計		9,723 [338]		1413 [7]		1408 [7]		16	2,757	57	
(9,723 [338])			(1413 [7])		(1408 [7])		(16)	(2,757)	(57)			
図書館			面積		閲覧席数				収 納 可 能 冊 数			大学全体
			484.56㎡		100				48,880			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
			1055.21㎡		—							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナルの整備費（運用コスト）を含む。		
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－ 千円	－ 千円			
		共同研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	－ 千円	－ 千円			
		図書購入費	5,568千円	3,000千円	3,132千円	3,264千円	3,396千円	－ 千円	－ 千円			
		設備購入費	129,936千円	19,209千円	12,621千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,760千円	1,460千円	1,460千円	1,460千円	－ 千円	－ 千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入、雑収入 等									
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		岡山医療技術専門学校									※令和2年度より学生募集停止（理学療法学科、作業療法学科）
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
	理学療法学科		年	人	年次人	人		倍		岡山県岡山市北区大供三丁目2番18号		
	作業療法学科		3	80	—	240	専門士	0.67	平成4年度			
	医療事務学科		3	40	—	120	専門士	0.60	平成4年度			
			1	40	—	40	—	0.35	平成21年度			
	大 学 の 名 称		西日本調理製菓専門学校									※平成31年度入学定員減（40人）（調理師科） 収容定員減（40人）
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	総合調理専攻科		年	人	年次人	人		倍				
	調理師科		2	40	—	80	専門士	0.78	平成25年度			
	パティシエ・ブランジェ科		1	80	—	80	—	0.63	昭和43年度			
	スイーツ科		2	40	—	80	専門士	0.72	平成18年度			
		1	80	—	80	—	0.28	昭和57年度				
大 学 の 名 称		インターナショナル岡山歯科衛生専門学校										
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度				
歯科衛生学科		年	人	年次人	人		倍					
		3	48	—	144	専門士	0.91	平成21年度				
附属施設の概要			該当なし									—

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部理学療法学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
基礎 科目	大学入門	1前	1				○		1	1	3	5		
	基盤ゼミⅠ	2前	1				○		2	1	3	5		
	基盤ゼミⅡ	3前	1				○		2	1	3	5		
	職業人の倫理と道德論	1後	2			○			1					
	心理学	1前		2		○								兼1
	哲学概論	1前		2		○								兼1
	健康科学概論	1後	1			○								兼1
	コミュニケーション英語	1前	2			○								兼1
	日本の歴史と文化	1前	2			○								兼1
	国際政治経済論	2後	1			○								兼1
	基礎生物	1前	1			○								兼1
	基礎物理	1前	1			○								兼1
	情報収集と処理	1後	1			○			1					
	統計分析の基礎	2後	1			○				1				
	人間関係論	3前		2		○								兼1
	コミュニケーション論	3前	1			○								兼1
	テーマ設定と研究方法	3前	1			○			1					
	研究デザイン	3前	1				○		6	1	1	3		
	小計(18科目)	—	18	6	0	—	—	—	7	1	3	5	0	兼9
専門 基礎 分野	メディカル英語	3後	2			○								兼1
	解剖学	1前	2			○			1					
	解剖学実習Ⅰ	1後	1					○	1					
	解剖学実習Ⅱ	2前	1					○	1					
	生理学	1前	2			○								兼1
	生理学実習	1後	1					○						兼1
	運動学	1後	2			○			1					
	運動学実習	2前	1					○	1			1		
	人間発達学	1前	2			○			1					
	臨床医学概論	1前	2			○			1					
	病理学	1後	2			○			1					
	精神医学	2後	2			○								兼1
	整形外科	2前	2			○			1					
	内科学	1後	2			○			1					
	神経内科学	2前	2			○								兼2
	小児科学	2前	2			○			1					
	リハビリテーション医学	1後	1			○			1					
	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
	地域包括マネジメント論	3後	1			○								兼3
	多職種連携論	1後	1			○						1		オムニバス
職業 専門 科目	理学療法概論	1前	2			○			1					
	基礎理学療法学	2前	2			○				1				
	基礎理学療法実習Ⅰ	2後	1					○			1	1		
	基礎理学療法実習Ⅱ	3前	1					○			2	1		
	理学療法セミナーⅠ	4前		1			○				1			
	理学療法セミナーⅡ	4後		1			○					1		
	理学療法管理学概論	3前	2			○			1					
	理学療法評価学Ⅰ	1後	2			○					1			
	理学療法評価学Ⅱ	2前	1			○					1			
	理学療法評価学実習Ⅰ	2後	1					○			1	1		
	理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○				2		
	理学療法評価学実習Ⅲ	3前	1					○			1	1		
	運動療法	1後	1			○			1					
	運動療法実習Ⅰ	2前	1					○				2		
	運動療法実習Ⅱ	2後	1					○				2		
	物理療法	2後	1			○			1					
	物理療法実習	3前	1					○				2		
	理学療法治療学Ⅰ	2前	2			○			1					

	理学療法治療学Ⅱ	2前	1			○			1						
	理学療法治療学Ⅲ	2後	1			○			1						
	理学療法治療学Ⅳ	2後	1			○				1					
	理学療法治療学実習Ⅰ	2前	1					○	1		1	1			
	理学療法治療学実習Ⅱ	2後	1					○			1	1			
	理学療法治療学実習Ⅲ	3前	1					○		1		1			
	老年期障害理学療法学	3前	1				○					1			
	理学療法演習Ⅰ	2後		2			○				1	1			
	理学療法演習Ⅱ	3後		2			○				1	1			
	日常生活活動学	2前	1			○						1			
	日常生活活動学実習	2後	1					○		1	1				
	生涯スポーツ実習	3前	1					○	1		3	2			
	スポーツ理学療法特論	2後	1					○			1	1			
	義肢装具学	3後		1		○								兼1	
	応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)	4前	1					○			1	1			
	応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)	4前		1				○						兼1	
	応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)	4前	1					○			1	1			
	生活環境学	2後	2			○						1			
	地域理学療法学	3前	1			○						1			
	予防理学療法学	3後		1		○						1			
	見学実習	1通	1					臨		1	1	1			
	評価実習	3前	3					臨			1	2			
	総合実習Ⅰ	3後	8					臨	1		1	1			
	総合実習Ⅱ	4前	8					臨			1	2			
小計(62科目)		-	89	9	0	—	—	—	8	1	3	5	0	兼10	
展開科目	ヒューマンサービス論	2後	2			○								兼1	
	人間形成論	3後	2			○								兼1	
	食生活マネジメント論	3前	2			○								兼1	
	生体情報科学	3後	2			○								兼1	
	NPO論	4前	2			○								兼1	
	スポーツ科学	4前	2			○								兼1	
	起業入門	4前	2			○								兼1	
	マネジメント論	4前	2			○								兼1	
	コーチング論	4前	2			○			1						
	岡山経営者論	4前	2			○			1					兼10	オムニバス
小計(10科目)		-	20	0	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼18	
総合科目	総合研究Ⅰ	3後	1				○		6	1	3	3			
	総合研究Ⅱ	4前	1				○		6	1	3	3			
	総合演習Ⅰ	3後		1			○		2		1	1			
	総合演習Ⅱ	4前		1			○				2	1			
	卒業論文	4後	2				○		8	1	2	3			
	小計(5科目)		—	4	2	0	—	—	—	8	1	3	3	0	-
合計(95科目)		—	131	17	0	—	—	—	9	1	3	5	0	兼34	
学位又は称号		理学療法学士（専門職）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習20単位以上 履修登録上限は、1年間ににおいて39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(健康科学部作業療法学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
基礎 科目	大学入門	1前	1				○		1	1		2		
	基盤ゼミⅠ	2前	1				○		1	1	1	2		
	基盤ゼミⅡ	3前	1				○		1	1	1	2		
	職業人の倫理と道德論	1後	2			○								兼1
	心理学	1前		2		○								兼1
	哲学概論	1前		2		○								兼1
	健康科学概論	1後	1			○			1					
	コミュニケーション英語	1前	2			○								兼1
	日本の歴史と文化	1前	2			○								兼1
	国際政治経済論	2後	1			○								兼1
	基礎生物	1前	1			○			1					
	基礎物理	1前	1			○								兼1
	情報収集と処理	1後	1			○			1					
	統計分析の基礎	2後	1			○			1					
	人間関係論	3前		2		○								兼1
	コミュニケーション論	3前	1			○								兼1
	テーマ設定と研究方法	3前	1			○			1					
	研究デザイン	3前	1				○		6	1				
	小計（18科目）	—	18	6	0	—	—	—	6	1	1	2	0	兼8
専門 基礎 分野	メディカル英語	3後	2			○			1					
	解剖学	1前	2			○								兼1
	解剖学実習Ⅰ	1後	1					○						兼1
	解剖学実習Ⅱ	2前	1					○						兼1
	生理学	1前	2			○			1					
	生理学実習	1後	1					○	1					
	運動学	1後	2			○			1					
	運動学実習	2前	1					○			1			
	人間発達学	1前	2			○								兼1
	臨床医学概論	1前	2			○								兼1
	病理学	1後	2			○								兼1
	精神医学	2後	2			○								兼1
	整形外科学	2前	2			○								兼1
	内科学	1後	2			○								兼1
	神経内科学	2前	2			○								兼1
	小児科学	2前	2			○								兼1
	リハビリテーション医学	1後	1			○			1					
	リハビリテーション概論	1前	1			○			1					
	地域包括マネジメント論	3後	1			○								兼3
	多職種連携論	1後	1			○				1				オムニバス
職業 専門 科目	作業療法概論	1前	2			○			1					
	基礎作業学	1後	1			○				1				
	基礎作業学実習Ⅰ	2前	1					○				1		
	基礎作業学実習Ⅱ	2後	1					○				1		
	作業療法セミナーⅠ	4前		1			○		1					
	作業療法セミナーⅡ	4後		1			○		1					
	作業療法管理学概論	3後	2			○			1					
	作業療法評価学	1後	2			○				1				
	作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○			1	1		
	作業療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○			1	1		
	作業療法評価学実習Ⅲ	2後	1					○			1	1		
	基礎作業療法治療学	3前	1			○			1					
	基礎作業療法治療学実習Ⅰ	3前	1					○				2		
	基礎作業療法治療学実習Ⅱ	3前	1					○			1	1		
	身体障害作業療法学Ⅰ	2前	2			○				1				

専門分野	身体障害作業療法学Ⅱ	2前	2						1							
	身体障害作業療法学Ⅲ	3前	1						1							
	身体障害作業療法学Ⅳ	3前	1						1							
	身体障害作業療法実習Ⅰ	2前	1					○			1	1				
	身体障害作業療法実習Ⅱ	2後	1					○	1			1				
	身体障害作業療法実習Ⅲ	3前	1					○					2			
	老年期障害作業療法学	2後	1				○		1							
	老年期障害作業療法実習	3前	1					○		1	1	2				
	精神障害作業療法学	2後	1				○			1						
	作業療法演習Ⅰ	2後		2				○				1				
	作業療法演習Ⅱ	3後		2				○					1			
	日常生活活動学	2前	1					○			1					
	日常生活活動学実習	2後	1						○			1	1			
	義肢装具学	3後		1				○							兼1	
	応用治療技術実習Ⅰ(徒手療法)	4前	1						○						兼2	
	応用治療技術実習Ⅱ(リハビリ工学)	4前	1						○	1						
	応用治療技術実習Ⅲ(セルフコンディショニング)	4前		1					○						兼2	
	生活環境学	2後	2					○		1						
	地域作業療法学	3後	1					○		1						
	予防作業療法学	3後	1					○		1						
	見学実習	1通	1							1		1	1			
	評価実習	3前	3								1	1	1			
	総合実習Ⅰ	3後	9							1			1			
	総合実習Ⅱ	4前	9									1	1			
小計(59科目)			—	89	8	0	—	—	—	6	1	1	2	0	兼19	
展開科目	ヒューマンサービス論	2後	2				○								兼1	
	人間形成論	3後	2				○								兼1	
	家族関係論	3前	2				○								兼1	
	地域社会論	3後	2				○								兼1	
	コミュニティ形成論	3後	2				○								兼1	
	地域生活と健康	4前	2				○		1							
	特別支援教育	4前	2				○		1							
	人間工学	4前	2				○		1							
	ライフサイクル論	4前	2				○								兼1	
	岡山経営者論	4前	2				○								兼11	オムニバス
小計(10科目)			—	20	0	0	—	—	—	3	0	0	0	0	兼17	
総合科目	総合研究Ⅰ	3後	1				○		6	1						
	総合研究Ⅱ	4前	1				○		6	1						
	総合演習Ⅰ	3後		1			○		2		1					
	総合演習Ⅱ	4前		1			○		2							
	卒業論文	4後	2				○		6	1	1	1				
小計(5 科目)			—	4	2	0	—	—	—	6	1	1	1	0	—	
合計(92科目)			—	131	16	0	—	—	—	6	1	1	2	0	兼37	
学位又は称号		作業療法学士（専門職）		学位又は学科の分野				保健衛生学関係（リハビリテーション関係）								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
【卒業要件】 本学科の卒業要件は、以下の通りとする。 1) 本学に4年以上在学すること。 2) 次により、必修科目131単位、選択科目4単位以上を履修すること。 基礎科目22単位以上 必修科目18単位以上 選択科目4単位以上 職業専門科目89単位以上 専門基礎分野科目から必修科目32単位以上 専門分野科目から必修科目57単位以上 展開科目必修科目20単位以上 総合科目必修科目4単位以上 実習・実験科目から40単位以上 うち、臨地実務実習22単位以上 履修登録上限は、1年間において39単位とする。 ただし、成績優秀者は41単位まで履修登録することができる。								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（健康科学部理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	大学入門	大学で自立的に学ぶために必要な、基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるようにする。大学教育の基本と学び方の基本を修得する。到達目標は、①大学で自律的に学ぶ心構えを身につけることができる。②自分が進む専門領域の基礎を知ることができる。③必要な資料や文献などを調査することができる。④文献などの内容を要約することができる。⑤定められた形式に従ってレポートを書くことができる。⑥レポートの内容を発表し、議論して自分の考えを再構成することができる。	
	基盤ゼミⅠ	基盤ゼミⅠでは、少人数編成のプレゼン教育を活用して、担当教員が準備する急激に変化する時代を生き抜くための課題群から学生が選択し、課題のあるべき姿と現実、その原因と解決策のオプションをまとめ、さらに最善の解決策へと絞り込んでいく思考過程を身につけていく。ゼミメンバーを2グループに分け、グループごとに課題を煮詰める作業を行い、教師が議長となりプロ（賛成）とコン（反対）に分かれて討論し、さらに立場を変えて討論を重ねることで、問題への認識を深め、より洗練された解決策を見出していくという方法をとる。 到達目標：①課題についての問題意識を明確にする。②課題の問題点を明確にできる。③課題の解決に向けての選択肢を示し、最善の選択肢を選ぶことができる。④課題に関して説得力ある形で人に伝える発信力とコミュニケーション力を身につける。⑤効果的なプレゼンテーションの組み立て方法を修得する。	
	基盤ゼミⅡ	基盤ゼミⅠで修得した、問題の核心を特定し最善の解決選択肢に到達するスキルを活用して、学生が自ら選択した課題に基づき、必要なデータ・資料を収集し、効果的な図表にまとめ、解決方法を本格的なプレゼンテーション形式で発表する。 自ら学ぶ姿勢を丁寧に鍛え、問題の核心を認知し、問題を掘り下げ、自ら必要なデータを調査し、論理的な思考過程を通して、最善の解決策を見出していく能力を育成する。 教師が議長となり、各人のプレゼンテーションについてプロコン・メソッドで討論し、さらに立場を変えて討論を重ねることでより洗練された解決策を見出していくという方法をとる。 到達目標：①課題を発見し、問題を特定することができる。②問題を掘り下げるのに必要なデータ・資料を収集し、効果的な図表にまとめることができる。③本格的なプレゼンテーション形式で課題の解決策を提示することができる。④自ら学び、調べ、解決策を探索する学修姿勢と力を身につける。	
	職業人の倫理と道德論	「医の倫理」が社会的問題となっている。「倫理」とは、人間の尊厳にかかわる我々人間の行動に対する規範や基準の事である。特に、人間を対象とする保健・医療の分野では様々な倫理的問題が生じている。そのため、医療従事者には適切な倫理的判断能力が求められる。本講義を通じて、人として倫理的感受性や倫理的判断力、倫理的意志決定力を高め、医療やリハビリテーションの質の向上を目指すことを目的とする。 到達目標：①倫理とその意義・重要性を説明できる。②保健・医療の現場における倫理的問題とその成り立ち・影響について説明できる。③保健・医療の現場における倫理的問題を識別できる。④保健・医療の現場における倫理的問題に対する自らの考え・立場（価値観）を述べることができる。⑤保健・医療の現場における倫理的問題に対するよりよい判断・意思決定のあり方を説明できる。	
	心理学	はじめて心理学を学ぶ人を対象に、心理学の基本的なトピックについて紹介する。 到達目標：心理学の基礎用語や代表的な理論について理解し、簡単に説明できるようになる。心理学の科学的な心の理解の仕方に触れ、日常生活で役立てられるようになる。	

哲学概論	西洋と東洋の主要な哲学思想の基本的内容を概観する。 到達目標:西洋と東洋の哲学思想についての基本的知識を修得する。物事を多面的に捉えことが可能であることを知り、自己の考え方を吟味する態度を養う。物事の表層ではなく、原理に迫る思考態度を身につける。	
健康科学概論	日本には古くより、医食同源という格言で表されるように、食事は命や健康と密接なつながりをもつものと考えられている。近年、食の多様化が進む中で、バランスの良い食生活を営むことは非常に重要である。特に、食事は生活習慣病など病気につながることも多い。そこで、本講義では、健康の維持・増進に関わる正しい知識を習得し、適切な食事・運動・睡眠という一連の規律正しい生活習慣の確立を目指すことを目的とする。	
コミュニケーション英語	講義概要： 大学生が留学生と交流しながら、社会生活での様々な状況に英語で対処する内容で構成され、身近な話題から専門分野の基礎編まで、幅広く多様な出来事を英語で疑似体験する。授業内容は、CEFRのB1レベルである。 到達目標： ①日常的に出会う様々な話題について、自然な英語表現を使ってやり取りができる。 ②外国人と自然体で接し、説明すべき状況や自分の考えを筋道立てて発言できる。	
日本の歴史と文化	文化をとおして「日本（人）らしさ」を考え、再確認する機会を持つ。その手段として、①時代の流れの中で日本文化がどのように変容していったかを大まかにとらえ、②時代やテーマごとに代表的な事例をいくつか取り上げ、英語で説明しつつその背景を考える。 上記をとおして、日本文化の特徴たる概念「もののあはれ」「侘び・さび」「幽玄」などや、「恩」「義理」「恥」など日本人の精神性を具体性をもって語れるようにする。	
国際政治経済論	本講義では、現代社会に対する基本的な知識を習得し、日本および世界で現在起こっているさまざまな問題についての理解を深める。本講義を通して、国際社会に生きる日本人として向き合い、自らの将来について考える機会とする。なお、本講義は英語教材を使用するものとする。 到達目標：日本および世界で現在起こっているさまざまな問題について理解し説明できる。	
基礎生物	生命の基本が細胞レベルで完結し、遺伝、分化、発生、病気、死といった生命現象が細胞の基本機能の上に成り立つしくみを理解する。核酸やタンパク質、脂質、炭水化物の構造といった基礎項目をはじめ、細胞内情報伝達、糖脂質代謝、神経生理、内分泌、免疫、疾患などの生物学や医学を学ぶために必要な基本事項を広範に取り扱う。 到達目標：①細胞の構成物質や小器官について分子レベルで、その働きを理解する。②遺伝子情報の転写と翻訳を理解する。③細胞分裂の仕組みを理解する。④物質とエネルギーの違いを理解する。⑤神経生理、内分泌、免疫の働きについて理解する。	
基礎物理	理学療法士の評価、治療について考察するためには、物理学の知識は欠くことができない。①物理学全般を教科書に沿って講義し、各章の概要を学ぶ。②例題や演習問題を解くことにより理解を深める。③教科書の章末問題が解けることを目標とする。	

		情報収集と処理	コンピュータの普及によって、多様なデータベースを療法士自身で作成できるようになり、日々の療法士業務で活用している。本講義ではデータベースの基本的な構造とその作成について講義・演習を行う。また、論文を収集し、アブストラクトテーブルを作成する。 到達目標：①データベースの概念を理解し説明できる。②医療現場におけるデータベースの重要性を認識する。③基本的なデータベース作成技術を習得する。④データベースが持つ様々な意味を理解できる。⑤論文を収集し、アブストラクトテーブルを作成できる。	
		統計分析の基礎	統計学は、社会に根づいた学問であるが初学者には苦手意識を抱きやすい学問である。そのため、本講義では、統計学の基礎となる分野を重点的に学ぶ。具体的な統計解析に習熟することを目的として、「統計学のための資料整理」、「確率論の基本」、「推測と検定」の理論について解説し、演習を行う。さらに、医学・保健学のための応用的な話題や活用できるデータ解析の手法を習得する。	
		人間関係論	現代の医療における課題は、1. 医療が「人間相手の仕事」であること、2. 「病人相手」の職業であり、「真の助力的活動」でなければならないこと、3. この仕事を「職業として引き受けていくこと」の意味であると言われている。特に、人は代理不可能で、主体性と独自性をもった存在である。こうした、一人一人の患者と医療従事者（理学療法士）が適切で良好な人間関係を築いていくためには、人間の心を知る「了解」とそれに基づいたコミュニケーションが必要となる。そこで、助力的人間関係を築いていくためには何が求められるかについて理解すると共に、その具体的な方法を学ぶ。	
		コミュニケーション論	本講義では、異文化コミュニケーション論の視点から、日本的コミュニケーションの諸特徴を考察しながら、日常における円滑な対人コミュニケーションの技法を身に付けると共に、英語を国際共通語として、諸外国の人々とのコミュニケーションの際に発生し得るトラブルの文化的背景を学びながら、その解決方法を修得する。	
		テーマ設定と研究方法	臨床現場で働くためになぜ研究マインド・研究スキルを身に付ける必要があるかを理解し、社会や対象者が抱える課題解決に寄与できる可能性を探ることができる。 到達目標：①研究テーマを設定する手順を理解する。②研究手法について理解することができる。	
		研究デザイン	各分野の指導教員のもと、研究計画の立案を通して、研究を実施するための必要な知識を段階的に獲得していく。具体的には、緒言、研究方法、結果及び考察というセクション別で、重要なポイントを学んでいく。 到達目標：研究の背景から予測される成果まで論理的に説明し、研究を実施するための研究計画を立案することができる。	
職業専門科目	専門基礎分野	メディカル英語	講義概要： 授業は、初診時の様々な基本的対応を踏まえて、療法士特有のリハビリ評価時から治療・訓練時の種々なる基本的対応へと進み、これらの対応の中でコミュニケーション技法を鍛え、さらにメディカルスタッフとのコミュニケーション技法へと発展させる構成とする。この過程の中で、医療分野で頻繁に使用される専門用語や表現の修得を基礎に置き、現場で普通に行われる英会話力を鍛えるとともに、英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力を修得しその向上を図り、英文読解に必要となる基本的な英単語を押さえ文法項目の確認を行い、医療分野に関連したトピックスの内容を理解する。授業内容は、CEFRのB1レベルをやや上回る水準に相当する。 到達目標： ①リハビリの臨床現場で使用される専門用語や表現が理解できる。 ②英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力が身につく、英語論文が理解できる。 ③リハビリの臨床現場で英語による基本的なコミュニケーション力を身につけることができる。	

		解剖学	理学療法士として従事する際に必要な知識（正常な人体の構造および機能）を学び理解する。①筋骨格系（四肢・体幹の骨・関節・筋肉）を学び理解する。②神経系を学び理解する。③感覚系を学び理解する。④循環器系～呼吸器系を学び理解する。⑤消化器系を学び理解する。⑥泌尿器系、その他を学び理解する。到達目標：正常な人体の各器官系の構造と機能を説明できる。	
		解剖学実習Ⅰ	上肢・下肢・体幹の骨・関節・筋について、骨模型等を利用した実習、体表解剖学を通して、機能解剖を学ぶことで、人体の構造を理解する。また、機能解剖の基礎知識を身につけ、骨標本や身体運動に適用することができるよう学ぶ。 到達目標：体表にあらわれる構造を解剖学的に説明できる。身体各部の運動を各部の骨・関節・筋の機能を使って説明できる。	
		解剖学実習Ⅱ	生前のご遺志により献体されたご遺体を通して、上肢・下肢・体幹の骨・関節・筋および、全身の臓器に関して、人体の構造を理解する。岡山大学で行われる人体解剖実習見学を軸として、その前後に骨模型やウェブ上から得られる模型画像を用いて予習・復習を行う。解剖学の基礎知識を身につけ、身体運動に適用することができるよう学ぶ。 到達目標：精緻に創られた人体に接することにより生命の大切さを実感できる。中枢神経系から出る脳脊髄神経・自律神経の走行を観察し、その機能を理解できる。胸部・腹部内蔵の配置と構造を学び、その機能を理解できる。四肢において骨格系・筋系・脈管系・神経系を同時に観察することにより四肢の構造と機能を理解できる。	
		生理学	ヒトの機能は運動や感覚系を中心とする動物性機能と、心臓循環、呼吸、消化器系などの植物性機能に分類される。本講義では、前半に動物性機能について学習し、運動機能や精神活動を含む神経機能、感覚器官、自律神経系といった広範囲な知識を理解する。後半に植物性機能について学習し、ヒトの生命活動に直結する生理機能を理解する。 到達目標：①細胞膜を介した物質の輸送が理解できる。②筋収縮の仕組みと運動神経による調節の仕組みを理解できる。③自律神経性調節の特徴を理解できる。④各種感覚の神経機構を理解できる。⑤高次脳機能に関わる脳領域とそのメカニズムを理解できる。⑥血液、循環について説明ができる。⑦呼吸の仕組みについて説明ができる。⑧消化と栄養素の吸収について説明できる。⑨尿生成と排尿について説明できる。⑩内部環境の維持に関わる機序が理解できる。	
		生理学実習	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や、恒常性維持について学ぶ。人と動物の生理機能を自らの手で測定し、その結果を解析・考察することにより、人体機能が維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養うことを目標とする。	
		運動学	運動学は、リハビリテーション医療の基礎科学であり、理学療法にとっても基礎でありながら、将来にわたって学び続ける専門職の根幹をなす科目である。また、専門的な評価や治療の根拠となる知識であるため、最重要科目の1つといえる。本講義では、人の身体運動に関する基本的な知識を習得するために、次のことを目標とする。①運動学で扱う用語を知り、実際の身体運動と結びつけられる。②運動学に必要な生体力学の知識を身につける。③上肢、下肢、体幹の機能解剖と運動について知識を身につける。④姿勢、歩行についての知識を身につける。	
		運動学実習	解剖学や運動学などの学問から習得した知識を踏まえ、正常な身体の機能解剖および身体運動を理解した上で、その観察および分析方法を学ぶ。また、観察・分析の結果を文章化できるようにする。 到達目標：①四肢・体幹の機能解剖および関節運動を理解する。②機能解剖を理解したうえで、理学療法評価の基礎となる触診技術を習得する。③関節運動を専門的に説明し実際に運動で表すことができる。④正常動作を観察し、それを運動学・運動力学的に分析して運動学的用語でまとめる。⑤分析した内容をレポートにまとめ、発表する。	

人間発達学	人間発達学では、胎児期から老年期までの人間の成長について、また、その成長過程にある病気について学ぶ。本講義を学ぶことで、医療従事者である理学療法士・作業療法士として、また、人間として障害のある人およびその家族の思いを理解できるようになることが目標である。	
臨床医学概論	臨床医学とは、疾患によらず患者に対して行われる診断・治療についての学問である。本講義では、救急医学、画像診断学、薬学、栄養学などリハビリテーションに関連した分野を中心に学ぶ。 到達目標：①救急医療がわかる。一次救命処置（BLS含む）が実践できる。②X線、CT・MRI等の基礎知識を身につける。解剖と機能の関連性が説明できる。③薬物の作用様式と作用機序を説明できる。リハビリテーションに関連した主な薬物の薬理作用を説明できる。④各栄養素の性質や働きを理解する。栄養不良や過栄養の身体への影響を理解する。	
病理学	病理学とはヒトの病気の成り立ちを考え、明らかにすることである。さまざまな病気と向き合う理学療法士にとって欠かせない知識となる。本講義では、各器官系の病気を理解するために、まず、生体の基本反応を学び、患者の全体像をとらえる思考力を涵養した上で、各器官系の代表疾患について学ぶ。 到達目標：①生体の基本反応が理解できる。②病因・病態（主に癌）を理解できる。③各種疾患の病理について理解できる。	
精神医学	精神医学は一般には馴染みがない学問のため、学生の多くが初学者である。そこで、本講義は、精神医学の総論を主体とし、精神医学の概要を学ぶ。 到達目標：①精神障害の成因（身体的原因と精神的原因）について理解できる。②精神機能の障害、およびその障害の際に出現する精神症状について理解できる。③疾病の特徴と治療の概要を理解する。	
整形外科学	整形外科の基礎で、特に最近の進歩に即応した知識を習得し、次いで機能解剖と臨床診断・治療を総論的にまとめ、リハビリテーションにつなげる。また、初歩的・基本的項目だけを学ぶのではなく、常に新しい知見を取り入れた講義を展開する。主に、整形外科に関連した疾病の定義や種類に関すること及び関連の理学療法について学ぶ。 到達目標：①整形外科に関連した疾病の概要および治療について理解する。②代表的な整形外科疾患に関連した治療、後療法について理解する。	
内科学	呼吸器、循環器などの内科学に関連した主要疾患の定義、特徴、病態および治療を概観する。 到達目標：①呼吸器、循環器等の内科学に関連した各種疾患の概要がわかる。②各種主要疾患の治療の概要がわかる。③各種主要疾患へのリハビリテーションの概要がわかる。	
神経内科学	神経内科とは、脳や脊髄、神経、筋肉といった運動や感覚を制御する仕組みに起こった病気について内科的な診断・治療をする医学である。本講義では、神経内科学の主要疾患の特徴や診断、治療について概観する。 到達目標：①神経内科学の主要疾患の原因や特徴（症状など）治療など概要を理解する。②神経疾患を診断するための各種検査方法および異常所見を理解する。	
小児科学	小児は大人の「小型版」ではない。成人との相違点と成長・発達にしたがって変化する各年齢における小児の特性を、理解し、問題点を解決できる力を養えるようにする。特に、小児に特有の疾患や、成人との相違に、主眼を置き解説する。	

		リハビリテーション医学	病気を理解することで、障がいなどの後遺症（機能障害や能力低下）を理解することができ、根拠に裏づけられたリハビリテーションが実践できる。そこで、本講義はリハビリテーションの対象となりやすい病気について、疾病の特徴、診断、治療について概説する。これにより、各疾患の診断や治療の概要や各疾患で生じる障がいの主なリハビリテーションが概説できることを目的とする。 到達目標：①各疾患の特徴や診断治療の概要、各疾患で生じる障がいの主なリハビリテーションが概説できる。②理学療法士として患者の機能回復・能力回復を支援することができる知識を習得する。	
		リハビリテーション概論	本講義では、リハビリテーションの歴史・定義・目的をはじめ、医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションについて学ぶ。また、理学療法・作業療法の医学的リハビリテーションでの位置づけについても学び、チーム医療における連携について学ぶ。さらに、リハビリテーションと保健福祉・行政など社会的資源との関係性について学ぶ。 到達目標：①リハビリテーションの定義を理解できる。②医学的リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置づけを理解できる。③リハビリテーションにおける外的環境について理解できる。④自立生活について理解できる。⑤ 就労支援について理解できる。	
		地域包括マネジメント論	地域包括ケアシステムについて理解を深めるとともに現場におけるマネジメントおよび介入・支援方法について学ぶ。特に、高齢化が進む現在におけるケアマネジメントの実際を理解する。また、各社会保障制度（障害者福祉、生活保護、介護保険、児童福祉等）におけるケアマネジメントの現状と関連性と理解を深める。 到達目標：①地域包括ケアシステムとケアマネジメントの概要と方法について理解する。②ケアマネジメントの具体的な支援方法について理解する。③地域包括ケアにおける多職種連携とマネジメントを理解し、他者と協力する力を身につける。 （オムニバス方式/全10回） （⑩ 浜田淳：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授/4回） 1回）ガイダンスーなぜ「地域包括ケアシステム」が必要なのかー 2回）岡山市の地域包括ケアの今後のあり方をディスカッションする。 3回）岡山地域医療構想・地域包括ケアと療法士の役割とは何か。 4回）岡山地域包括ケアの療法士の関わり方をディスカッションする。 （⑪ 岸川和忠：岡山市保健福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課長/2回） 1回）岡山市の地域包括ケアの現状、課題 2回）地域包括ケアシステム構築における基礎自治体の役割 （⑫ 遠藤浩：岡山県地域包括ケアシステム学名誉会員/4回） 1回）多職種連携と地域包括ケアⅠ（他職種連携の必要性、阻害要因） 2回）多職種連携と地域包括ケアⅡ（他職種連携の重要性についてのディスカッション） 3回）先進事例の研究－介護保険サービスの充実強化、医療との連携強化に関する取り組み－ 4回）総括と学習到達度の確認テスト	オムニバス方式 同時に行う学生数：120人 教育上必要な理由は、本学部が育成する人材像を達成する上で、地域包括ケアシステムを理解することは極めて重要である。岡山地域の地域包括ケアシステムの専門家や研究者、行政職から岡山地域の地域包括ケアシステムの現状や将来像について直接授業を受けることで、地域のニーズや課題を学ぶことができ、十分な教育効果が期待できる。講師陣は多忙なため、何度も招聘することが困難なため合同授業としている。なお、大講義室（225名収容可能）を利用するため、教育上支障はない。
		多職種連携論	今後の社会状況では、保健・医療・福祉の統合において、臨床では各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人間的視点でアプローチを行うには、関連職種が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解することが必要となる。 到達目標：①専門職種間連携の概要を理解し、自職種について説明できる。②保健・医療・福祉に関わる職種の専門性と関連について説明できる。③職種間連携実践のあり方について概説できる。	

専門分野	理学療法概論	理学療法およびリハビリテーションの歴史・概念・定義を基礎から学び理解する。また、理学療法の業務内容等を理解するとともに医学的リハビリテーションにおける理学療法士の役割および他の関連医療職との連携についても学習する。 到達目標：①理学療法の全体像を理解し説明できる。②理学療法業務内容を理解し説明できる。③理学療法士と多職種連携について説明できる。④自ら調べた内容をまとめてプレゼンテーションすることができる。	
	基礎理学療法学	運動学で学習した知識を踏まえ、正常な基本的動作の遂行に必要な心身機能を理解するとともに、疾患や障害による動作障害の特徴を正常と対比させ運動学的に理解する。よって、講義に際しては運動学の基礎知識を自主的に予習・復習すること。毎回小テストを実施し、現状を把握して予習・復習に繋げる。 到達目標：①運動学で学習した基礎知識をもとに、姿勢・動作との関連性がわかる。②姿勢・動作に及ぼす随意運動と反射について理解できる。③基本的動作のメカニズムが理解できる。④基本的動作介助のメカニズムが理解できる。	
	基礎理学療法実習Ⅰ	「基礎理学療法学」の内容を基に、基本的動作訓練の内容を学ぶ。理論に沿った基本的動作訓練の立案を模擬患者等のケースカンファレンス等から学ぶ。また、基本的動作の介助を利用した治療を学び、ImpairmentとDisabilityの目的別に使用する基本的動作を学ぶ。 到達目標：①理論に沿った基本的動作訓練を立案できる。②基本的動作訓練を実施できる。③基本的動作の介助を使用した治療ができる。	
	基礎理学療法実習Ⅱ	「基礎理学療法実習Ⅰ」の基本的概念を理解した上で、トランスファーを含む起居移乗動作の内容を学ぶ。運動学的内容を理解し、移乗動作の介助を行うことで、患者の動作スキル向上や、最小限の介助量にて最大限の効果を得る方法を学ぶ。また、移乗動作における問題解決方法の基礎的知識と技術を学ぶ。 到達目標：①起き上がりの介助ができる。②立ち上がりの介助ができる。③床からの立ち上がりの介助ができる。④ベッドと車椅子間のトランスファー介助ができる。⑤歩行の介助ができる。	
	理学療法セミナーⅠ	3年間で身に付けた理学療法に関する知識を総括し内容を理解することを目標とする。小テストや模擬試験を行うことにより、理学療法に関する知識の再確認を行うと共に、知識を定着させる。特にこのセミナーでは基礎・専門基礎科目の知識を重点的に身につけることを目的とする。	
	理学療法セミナーⅡ	「理学療法セミナーⅠ」の内容をもとに専門分野の知識を総括し内容を整理して身につけることを目標とする。小テストや模擬試験を行うことにより、理学療法に関する知識の再確認を行うと共に、知識を定着させる。特にこのセミナーでは専門科目の知識を重点的に身につけることを目的とする。	
	理学療法管理学概論	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。理学療法倫理と理学療法部門の管理、理学療法教育について理解を深め、より質の高い理学療法を提供するため、保健・医療・福祉に関する制度（医療保険・介護保険制度を含む）の理解と、組織運営に関する総合的能力を身につける。チームアプローチを基盤とした組織の管理と運営の基礎応用について教授する。また、理学療法士として就業するうえで、人・物・金・時間・情報の管理と人間関係の構築、倫理観や、病院、施設の組織および理学療法施設基準、診療報酬等を含む理学療法部門の管理・運営について学ぶ。 到達目標：①組織における管理の重要性を説明できる。②施設内の管理法について説明できる。③リーダーシップの重要性を説明できる。④理学療法倫理を理解できる。⑤医療保険制度、介護保険制度を理解できる。⑥職場管理、理学療法教育について理解できる。	

理学療法評価学Ⅰ	理学療法における検査・測定に関しての知識を深め、それぞれに対する意義・目的を学習する。形態測定の意義・目的・方法を理解する。関節可動域検査に関しては、意義・目的・基本軸・移動軸・正常可動範囲を理解する。また、徒手筋力検査法では意義・目的・起始・付着を理解し判定基準を理解する。 到達目標：①検査・測定の意義目的を理解できる。②形態測定の目的・方法を理解できる。③関節可動域検査の目的・方法を理解できる。④徒手筋力検査法の目的・方法を理解できる。	
理学療法評価学Ⅱ	理学療法における検査・測定に関しての知識を深め、それぞれに対する意義・目的を学習する。バイタルチェックの方法や画像情報を利用した評価、疼痛検査、反射検査、筋緊張検査、運動耐容能、平行機能検査、動作観察及び分析の方法を学ぶ。 到達目標：①各測定・検査項目の目的が説明できる。②画像の情報から異常を答えることができる。③疼痛検査：痛みの質・種類を分類できる。代表的なペインスケールの名称を上げることができる。④知覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚それぞれの違いを理解できる。⑤反射検査：反射のメカニズムを理解できる。各検査法を理解できる。⑥筋緊張検査：痙縮・固縮・筋スパズムの違いを説明できる。⑦血圧・心拍数：適切な手順を説明することができる。⑧運動耐容能・平衡機能検査：各種テストを理解することができる。⑨動作・歩行分析：正常方向を理解できる。観察手順を理解する。原因を明らかにできる。⑩各測定・検査結果を記載できる。	
理学療法評価学実習Ⅰ	「理学療法評価学Ⅰ」に対応した検査・測定に関して実技を通して技術を習得する。形態測定ではランドマークを正確に触診でき、メジャーの適切な使用を学ぶ。関節可動域検査では基本軸・移動軸を把握し適切な角度計の当て方を学ぶ。徒手筋力検査では、適切な肢位、順序で測定する方法を学ぶ。修得した評価技能を実技試験で行い評価する。 到達目標：①形態測定が実施できる。②関節可動域検査が実施できる。③徒手筋力検査を実施できる。	
理学療法評価学実習Ⅱ	「理学療法評価学Ⅱ」の内容に基づき、検査・測定に関して、実技を通して技術を習得する。修得した評価技能を実技試験で行い評価する。 到達目標：①各測定・検査項目の技術を正確に行うことができる。②画像の情報から異常を答えることができる。③疼痛検査：痛みについて順を追って検査できる。またそれを使い強さを評価できる。④知覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚を検査することができる。⑤反射検査：深部反射・病的反射・表在反射を実施することができる。⑥筋緊張検査：筋緊張検査を実施できる。⑦血圧・心拍数：適切な手順で測定することができる。⑧運動耐容能・平行機能検査：各種テストを実施することができる。⑨動作・歩行分析：歩行周期に基づいて歩容を観察できる。原因を明らかにできる。⑩各測定・検査結果を記載できる。	
理学療法評価学実習Ⅲ	理学療法評価学実習Ⅲでは、「理学療法実習Ⅰ」「理学療法実習Ⅱ」で身に付けた検査・測定の実技を組み合わせ、問題点の抽出を行う。模擬患者を利用し技術を習得すると共に臨床推考を行う。修得した評価技能を実技試験で行い評価する。 到達目標：①検査項目を立案することができる。②複数の検査項目を組み合わせで実施することができる。③検査結果を統合解釈し問題点の抽出ができる。④各測定・検査結果を記載できる。	
運動療法	解剖学・運動学・生理学・病理学などの基礎科目を基に、運動療法の基礎である可動域運動、筋力増強運動・持久性運動、協調性運動、全身調整運動について知識と最新の技術を教授する。本講義は基礎科目と運動療法のつながりを理解し、医学的根拠に基づいた運動療法の基礎を学習・習得することを目的とする。 到達目標：①運動療法の基礎を理解する。②可動域運動に必要な知識を理解する。③筋力増強運動に必要な知識を理解できる。④筋持久力運動の理論を理解できる。⑤協調性運動の理論を理解できる。⑥全身調整運動の理論を理解できる。⑦運動学習に必要な知識を理解する。⑧治療体操・動作を利用した運動療法を理解できる。	

運動療法実習Ⅰ	「運動療法」の内容を基に、可動域運動、筋力増強運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実習を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②可動域運動を実施できる。③筋力増強運動を実施できる。	
運動療法実習Ⅱ	「運動療法」の内容を基に、持久力運動、協調性運動、全身調整運動について実際に実技を行うことで、運動療法の基礎を身につける。実技を行うことで、理論と技術を架橋する役割を果たし、実践力を身につける。 到達目標：①理論に沿った運動療法を立案し実施できる。②筋持久力運動を実施できる。③協調性運動を実施できる。④全身調整運動を実施できる。⑤治療体操・動作を利用した運動療法を実施できる。	
物理療法	各種物理療法について講義と実習により理論と実際を学ぶ。その中で最も使用頻度の高い温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実際を学ぶ。また、その中から新しい概念に対してもトピックスを学ぶことで修得する。 到達目標：①各種物理療法についての生理的な作用機序を理解する。②各種物理療法の適応と禁忌、リスク管理を理解する。③温熱療法の使用法がわかる。④光線療法の使用法がわかる。⑤電気刺激療法の使用法がわかる。⑥牽引療法の使用法がわかる。⑦マッサージ療法の方法がわかる。	
物理療法実習	「物理療法」の内容を基に、温熱療法・光線療法・水治療法・電気刺激療法・牽引療法・マッサージ療法（浮腫軽減）の実技を学ぶ。 到達目標：①温熱療法が使用できる。②光線療法が使用できる。③電気刺激療法が使用できる。④牽引療法ができる。⑤マッサージ療法ができる。	
理学療法治療学Ⅰ	神経系疾患（脳障害・脊髄障害）に関わる病理学を基に、機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患（脳障害・脊髄障害）の障害像を理解することができる。②神経系疾患（脳障害・脊髄障害）の評価項目を実施することができる。③神経系疾患（脳障害・脊髄障害）の画像を理解することができる。④神経系疾患（脳障害・脊髄障害）の理学療法を実施できる。⑤正常発達と発達障害の特性を理解することができる。	
理学療法治療学Ⅱ	神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）に関わる病理学を基に、機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像・検査所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の障害像を理解することができる。②神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）の評価項目を実施することができる。③神経系疾患（末梢神経障害・神経筋障害）のデータを理解することができる。	
理学療法治療学Ⅲ	運動器疾患に関わる解剖学・運動学・生理学を基に、運動器障害理学療法を学ぶ。整形外科領域における運動器疾患を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択するための知識（治療プログラム立案）と実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患の障害学を理解する。②運動器疾患の評価内容を理解する。③運動器疾患の治療プログラムを作成できる。	

		理学療法治療学Ⅳ	運動療法を行う上で呼吸・循環・代謝の知識は必要不可欠であり、この講義では呼吸器疾患・心疾患・代謝疾患を通して基礎的内容を理解し最新のトピックスと治療について学ぶ。呼吸器疾患では急性・慢性呼吸器疾患の概要と呼吸理学療法を学び、心疾患では心電図の見方や各疾患の特徴から見た理学療法を学び、代謝疾患では、糖尿病・腎障害・肝障害・脂質異常についての理学療法を学ぶ。 到達目標：①呼吸・循環器の解剖・生理学を理解することができる。②心疾患特有の心電図波形を説明できる。③呼吸・循環器障害患者・代謝異常患者の運動療法の基礎を理解できる。④呼吸・循環器障害患者・代謝異常患者の運動療法リスク管理が理解できる。⑤代謝異常の生理学的機序・病理を理解することができる。	
		理学療法治療学実習Ⅰ	「理学療法治療学Ⅰ・Ⅱ」の内容を基に、神経系疾患の機能障害を理解する。各障害に対する評価項目、画像所見を踏まえた障害像の把握をはじめ、治療・訓練内容を学ぶとともに最近のトピックスについても学ぶ。 到達目標：①神経系疾患の障害像を理解することができる。②神経系疾患の評価項目を実施することができる。③神経系疾患の画像を理解することができる。④理学療法の実施ができる。	
		理学療法治療学実習Ⅱ	「理学療法治療学Ⅲ」の内容を基に、主に運動器障害理学療法の実際を学ぶ。整形外科領域における骨折と変形性関節症を例に疾患学・障害学の病態を理解し、必要な理学療法を選択し実施するための技術を養う。 到達目標：①運動器疾患における理学療法が実施できる。②変形性関節症の障害学を理解する。③変形性関節症の治療内容を理解する。④変形性膝関節症の治療のプログラムを作成できる。⑤変形性関節症の治療プログラムが実施できる。	
		理学療法治療学実習Ⅲ	「理学療法治療学Ⅳ」の講義を基に、呼吸器・心疾患・代謝疾患を通して基礎的内容を理解し最新のトピックスと治療について学ぶ。呼吸器疾患では呼吸管理と呼吸理学療法を学び、心疾患では心電図の見方や各疾患の特徴から見た理学療法を学び、代謝疾患では、糖尿病・腎障害・肝障害・脂質異常についての理学療法の実際を学ぶ。 到達目標：①呼吸・循環器障害の運動療法ができる。②心疾患特有の心電図波形を説明できる。③呼吸・循環器障害患者・代謝異常患者の運動療法の基礎を理解できる。④呼吸器疾患患者・循環器障害患者・代謝異常患者の運動療法リスク管理が理解できる。⑤呼吸・循環・代謝異常の生理学的機序・病理を理解することができる。	
		老年期障害理学療法学	実習、就職での対象者が高齢者となる可能性が高いなかで、複数の病気を持った高齢者や虚弱な老年者など、老年期における理学療法の理解を深める。また、高齢者に対するレクリエーションセラピーについて学ぶ。 到達目標：①レクリエーションセラピーの理論を理解できる。②加齢による身体変化を理解できる。③高齢者に多い問題を理解できる。④在宅におけるリハビリテーションを理解できる。⑤リハビリテーションにおけるリスク管理が理解できる。	
		理学療法演習Ⅰ	疾病から障害を捉え、特に医療現場にて遭遇する多様な患者に対して、患者に適した理学療法を実施するために演習を通じて知識の統合を図る。事例やペーパーペイシェントを活用し理学療法評価から治療プログラムの立案までの基本的な臨床的思考能力を鍛える。	
		理学療法演習Ⅱ	臨床場面で遭遇する多様な対象者に対して、環境と社会的背景に目を向けることで、理学療法士として支援を行うための知識・技術の統合を図る。演習を通じ事例やペーパーペイシェントを活用し退院指導の方法から地域社会へのはたらきかけまでの基本的な思考能力を鍛える。	

日常生活活動学	人々の日常生活を医療・福祉の観点から理論的にとらえ対象者のアプローチを行うための基礎的能力を養う。 ADLの概念を理解し、ADLの評価手法、福祉用具の構造、種類、処方についての理解を深める。そして、疾患・障害によって異なるADL障害の特徴を知り、日常生活動作の自立および介助量の軽減に向けた指導、訓練方法を学ぶ。また、在宅や施設で生活する高齢者・障害者の生活を支援するために住環境整備に関する知識と関連づけ自立的な生活にあたって必要な福祉機器について、その種類、適応について学習する。 到達目標：①日常生活活動(ADL)の概念および評価方法について説明できる。②福祉用具をあげて、その適応・使用法・指導法について説明できる。③疾患・障害によって異なるADL障害の特徴およびその訓練方法および指導方法について説明できる。	
日常生活活動学実習	対象者における日常生活動作の自立および介助量を軽減するための具体的な支援技術と方法について実践を通して学ぶ。対象者の多様なニーズや個人因子・環境因子などの背景を考慮した支援技術を身につける。対象者に合わせた介助法、自助具・福祉用具の適応方法、動作指導に必要な技能を身につける。	
生涯スポーツ実習	地域と協力しながらスポーツ障害予防の指導を行う。学内の講義を基礎として、スポーツ障害予防のプログラムを立案し実行することにより、幅広い知識と指導力を錬磨する。 到達目標：①スポーツ障害予防プログラムを立案できる。②スポーツ障害予防プログラムを実行できる。③スポーツ障害プログラムを指導できる。	
スポーツ理学療法特論	生涯スポーツへの理学療法士の関わりやロコモティブシンドロームなど介護予防の観点からスポーツの有用性を熟考しながら、理学療法の関連について学ぶ。また、基礎的なスポーツ理学療法を通して、プログラム立案から実施までを実習形式にて学ぶ。さらに、スポーツトレーニングの基礎を体験・経験し、スポーツに興味を持ち、また理学療法士がスポーツにどのように関わるかを学ぶ。 到達目標：①健康と日常運動とスポーツの関連性を理解できる。②スポーツ障害の基礎を理解できる。③スポーツ理学療法のプログラムを立案できる。④基礎的なスポーツ理学療法が実施できる。	
義肢装具学	リハビリテーション医学における義肢・装具の意義と機能を学ぶ。義肢・装具の適応となる疾患や障害を学び、義肢・装具の構造と機能を学び、疾患や障害に対する義肢・装具の適応と適合判定能力を養う。さらに、動作訓練に使用される義肢装具とその機能を学習する。 到達目標：①義肢装具の意義と機能が理解できる。②義肢装具の適応となる疾患や障害が理解できる。③動作訓練に必要な義肢装具を選択できる。	
応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法）	この講義では、関節運動学を主に学ぶ。関節内運動の治療を中心に関節に対しての治療手技を実習において学ぶ。関節内運動を考慮した治療を行うには、高度な技術と知識が必要であるため、この講義では、各関節の関節内運動を理解し、関節内運動を実際に使用して治療できることを目標とする。この単元では、触診から上肢下肢～体幹の関節をターゲットとする。	
応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学）	工学技術をリハビリテーション分野に応用した、治療やトレーニング、生活支援、介護支援に関するシステム・装置などについて学習する。具体的には、リハビリテーションロボット、介護ロボット、入力・操作補助装置、コミュニケーション補助装置、移動・移乗支援機器、ICTを利用した支援システム、機能的電気刺激などを理解し応用することができる。	

応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング）	セルフコンディショニングや予防的観点から有用な運動指導方法について学習する。運動学習理論に基づくトレーニングやストレッチング、姿勢を整えるためのボディワークを実習を通して実際に行い、身体への気づきを通して身体感覚を高め、自己調整力やストレス対処能力の向上を図ることを目的とする。身体の動きに対する知識を深めるとともに、運動プログラム指導を立案し実習することで、臨床の場で活用できる高度な指導技術の習得を目指す。 到達目標：①運動学習理論に基づくトレーニングを立案できる。②運動学習理論に基づくトレーニングを行うことができる。③運動学習理論に基づくトレーニングを指導できる。	
生活環境学	地域リハビリテーションに基づき、地域・家庭に暮らす高齢者や障害者の生活環境を理解する。限られた環境の中で、QOLやADLの低下をもたらす環境の障壁について学習をすすめ、住環境整備の評価、改善策の実践や指導が行えるように知識を身に付ける。 到達目標：①障害者、高齢者を取り囲む生活環境の障壁（バリアー）を理解し説明できる。②QOLの向上を目指した生活環境整備の基本的知識、基本的支援技術を理解し、説明できる。③障害者・高齢者のための居住環境調整案（住宅改修案）を作成し、生活支援ができる。	
地域理学療法学	地域包括ケアシステムの構築において理学療法士に期待される役割を担うためには、介護予防や地域ケア会議といった場所に参画していくことが重要となる。その中で、個をみるだけでなく、地域全体をみることが求められ、その現場から得たことを事業化、施策化、そして政策化につなげるための基礎的知識を身につける。 到達目標：①地域包括ケアシステムを説明できる。②リハビリテーション専門職の役割を説明できる。③介護予防の取り組みを理解できる。④理学療法士・作業療法士の役割・機能を説明できる。	
予防理学療法学	現在、本邦の高齢化が問題となっており、高齢者の介護予防や健康増進は、社会的関心事である。近年、運動習慣により生活習慣病をはじめ多くの疾患の発症リスクを減少することが示され、理学療法士による適切な介入が期待されている。予防理学療法学では、日本理学療法士協会が推奨している介護予防を中心に学び理学療法士として予防医学に寄与する方法を学ぶことを目的とする。 到達目標：①本邦の公衆衛生の状況を理解できる。②地域包括ケアシステムを理解できる。③高齢者に対する予防理学療法を理解できる。④健康増進に関わる予防理学療法を理解できる。	
見学実習	実習指導者のもとで、実際の理学療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を観察する。また、対象者が抱える苦悩や痛みへの気づき、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と理学療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や理学療法の現状を知り専門職業人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。	

		評価実習	基幹科目で学んだ専門知識・技術をもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの理学療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における理学療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。	
		総合実習Ⅰ	基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法の全過程と関連職種との連携を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育て、問題を特定化していく。 到達目標：①基本的な理学療法評価技術を修得する。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法の全過程を修得する。⑤関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。	
		総合実習Ⅱ	実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という理学療法の全過程を実践し、多職種連携の実際を体験し、理学療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。また、専門技能錬成プログラムと展開力育成プログラムを有機的に組み合わせて運用することにより、職業現場を主導できる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。専門技能錬成プログラムは、理論に裏付けられた深い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一段高い実践力を身につける。また、展開力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を深め、アイディアを創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。 到達目標：①諸種の理学療法評価技術を修得する。②理学療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という理学療法の全過程を体験し実践する。⑤対象者に必要な理学療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。⑥チーム医療における理学療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑦対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を深め、解決案の提案につなげていくことができる。	
	展開科目	ヒューマンサービス論	人間の尊厳と多様性を理解し深い人間理解を基盤として、サービスを提供する側、受ける側の2つの視点から、ヒューマンサービスとは何かを探求し、活用方法について学び、組織的、社会的観点を踏まえた人の痛みや悲しみが受け止められる鋭い感性と豊かな人間性を身につける。	

人間形成論	ヒューマンサービスを提供するためには、人間のライフサイクルの全体と異なる世代のつながりを重視しなければならない。このことについて、社会の現状・ホスピタリズムなどの様々な事象を手がかりにして、社会生活における人間形成について理解を深める。開かれた生命として人間の特性を理解し、現代社会の様々な問題に焦点をあて課題解決策を模索する。この科目を履修することでサービスを創造する基盤的能力を養い、人間のライフサイクルに応じたヒューマンサービスを創造する力を身につける。	
食生活マネジメント論	健康における食生活の重要性について理解を深める。また、食生活における老化予防・生活習慣病予防についての見識を深め、新たなサービスを創造する基盤を養う。この科目を履修することで在宅生活を支える食生活の重要性を理解し、新たなサービスを創造する基礎的な力を身につける。	
生体情報科学	健康に関する情報は、医療・ヘルスケア分野、健診データ、スポーツ分野、在宅・家庭などから収集される。e-Healthにおけるウェアラブル端末やI o T等を活用した健康に関する情報の収集技術と可視化、Personal Health Record（P H R）などのデータベース活用を通して、日常生活（生活習慣）に寄与できる医療・ヘルスケア・健康サービスについて講述する。到達目標：①医療・ヘルスケア分野におけるe-Healthの概念を理解できる。②様々な生体情報のセンシング技術について理解できる。③I o T環境における生体情報の収集について理解し、活用できる。④e-Healthにおける健康情報データベースについて理解し、活用できる。⑤医療・ヘルスケア・健康サービスの提供について理解し、活用できる。	
NPO論	概要：「NPO論」ではあるが、NPOに特化し過ぎることで、NPOしか知らない「井の中の蛙」にならないようにしたい。そのため、経営学の企業統治（コーポレート・ガバナンス）についての知識を深め、「経営」についての基礎的知識を修得した上で、ソーシャルビジネスという大きな枠組みから俯瞰しNPOについて解説する。 到達目標：1．経営という視点からNPOを理解できるようになる。 2．事業を通しての社会貢献について知見を深められる。3．NPOとは何かが学べ、その設立方法を修得できる。	
スポーツ科学	日常生活から競技スポーツに至るまで、身体運動を科学するためのアプローチの仕方（実験手法等）を学んでいく。特に、バイオメカニクスや運動生理学的観点から至適バイオマーカーを精選し、侵襲的・非侵襲的方法に基づきながら、様々な課題において包括的に検討する。この科目を履修することにより、様々な職業現場で、生体における未解決の事象に対して問題を提起し（課題発見力）、自らその問題解決に挑戦しようとする問題解決力を養い、対象者の課題やニーズに応じた新たなサービスを創造する力を身につける。	
起業入門	この授業では、ベンチャーキャピタルを起業した経験から、起業活動の実例を教授し、それを紐解くことにより、起業という活動がどのような活動であるのかを理解していく。またワークショップ形式により、ごく簡単な事業計画を作成する。 到達目標：自ら起業することを想定し、思考することを通して、ごく簡単な事業計画を作成できる。	
マネジメント論	組織のマネジメントに関わる基本理論を学ぶ。組織全体をマネジメントするという発想だけでなく、組織に所属する個人、下位組織としての集団、外部環境、組織の動態的プロセスを総合的にマネジメントするために必要な基礎的知識と技能を修得する。この科目を履修することで対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にし、目標を達成するための力（管理力）を身につける。	

コーチング論	サービスを形にし提供するためには、他者の協力は欠かせない。そこで、コーチングの観点から学びサービスを創造し、ビジネス場面での人的資源の活用方法や課題について学ぶ。 日本におけるコーチングは、ここ10年ぐらいでビジネス界を中心に管理職の必須スキルとして広がり、多くの人々の成長や変化に大きく貢献している。このコーチングの基礎理論とコミュニケーションスキルを理解し、上司や部下の関係、仲間や親子関係等の普段の職場や日常生活において実践できる能力を身につける。この科目を履修することで対象者や地域のニーズを新たなサービスの形にするために必要な知識と技術を身につける。	
岡山経営者論	地域に必要なサービス創造（Service Innovation）をおこなうためには、地域に根差したサービス創造をおこなっている経営者の方々に直接講義を受け質問し議論することは有意義である。本講義では、岡山の経営者ならびにイノベーターを招き個人、起業、新規事業展開、海外事業展開、地方創生などをテーマにオムニバス形式で講義を行う。 岡山という地域の中で、「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるのかを学ぶ、これまで大学で学んできた知見を活用し「サービス創造」をおこなうための発想力を身に付ける。 （オムニバス方式/全15回） ① 浅利正二：学長/5回） 1回）オリエンテーション／地域創生・地域活性がなぜ求められるか？ 2回）岡山地域の経済情勢／地域創生・地域活性に必要な発想・思考とは 3回）「病院経営について」 元病院長として、患者・地域のニーズを把握する手法や、働き方改革における職員の ニーズに応答する手法、病院経営戦略における施設連携手法について。 4回, 5回) 総括：地域活性化に求められるアイディアと精神（グループワーク） これまでの各経営者の発想力や手法についてグループで整理し、新たなサービスの創出に至る思考過程を具体化する。 岡山の経営者から学ぶ新たなサービスの創造と概要の構築（個人ワーク） 対象者や地域の活性化に求められるサービスとは何かを創造し、対象者や地域における新しいサービスを創造する。 （28 二神雅一：(株)創心會/1回） 「新事業展開と多角化」 作業療法士として起業することになった背景、新サービスの考え方、起業化の方法。 （27 山根一人：(株)アールケア/1回） 「サービス創出から起業化まで」 理学療法士として起業することになった背景、新サービスの考え方、起業化の方法。 （29 小山敏章：(株)ケイ・クリエイト/1回） 「拡大戦略と今後の展望について」 病院勤務の薬剤師から調剤薬局を起業するに至った経緯、多店舗展開（拡大戦略）の手法、経営哲学。 （30 上田泰輔：(医)プライムケア/1回） 「新規市場への参入と分析について」 訪問歯科、デイサービス事業を起業した経緯、新規市場への参入とその分析方法。 （31 大塚学：(株)大塚デザイン/1回） 「ブランド戦略について」 独自の感性と視点で、ものづくりに携わり、岡山を代表するNO.1デザイン会社としてのブランドの確立、ブランディング手法、浸透方法について。 （32 田中英樹：(株)オアシスジャパン/1回） 「新市場での事業化とアイディア創出について」 車両販売の中でも、早期から福祉車両に焦点をあてた発想や異業種（元教員）からの起業の経緯。また、医療関係職を集めた交流会を主催することで、本業とのシナジー効果をどのように事業に反映し、新しいサービスを創造しているか。	オムニバス方式 同時に行う学生数：120人 教育上必要な理由は、さまざまな分野の経営者ならびにイノベーターから直接教授していただくことで、サービスの創造に欠かせない思考と創造力を育むために必要であり、他分野の視点やアイディアを形にする方法を学ぶため、十分な教育効果が期待できる。講師陣は多忙なため、何度も招聘することが困難な岡山を代表する経営者ならびにイノベーターとしている。 なお、大講義室（225名収容可能）を利用するため、教育上支障はない。

		(33 清水努：(有)清風庵/1回) 「新商品開発戦略による、地元貢献ビジネスについて」 「岡山のお土産＝きびだんご」というイメージが定着する中、新たなお土産スイーツ「岡山ロール」を発案（洋菓子テイストを盛り込んだ和菓子）。全国的にも取り上げられる人気スイーツに押し上げることに成功した、発想力とブランド戦略について。 (36 三宅崇之：和研ハーディ(株)/1回) 「ニッチ・ビジネスにおける事業展開について」 ニッチビジネスとは何か。「空間システム創造」をキーワードに、モノを収めることに関するニーズに対応する事業を起業した経緯、ユニークな経営理念とその浸透や職員教育方法。 (35 鴨井尚志：カモ井加工紙(株)/1回) 「市場開拓戦略（海外展開）、ブランド化、地域貢献」について 商品に新たな価値を付加することで大成功を収めた、市場開拓戦略について (34 宮下附一竜：宮下酒造(株)/1回) 「ブランド化戦略と地域活性化について」 ビール市場における新たな市場を開拓した経緯と、独歩のブランド戦略について。	
総合科目	総合研究Ⅰ	学生が設定しようとする研究テーマについて、先行研究の把握（論文抄読）とその要約・レビュー、実現可能な研究計画書の作成演習（倫理委員会での審査を含む研究手法の組み立てとその手順）を通じて、論文執筆演習を段階的に行う。 到達目標：①実際の研究テーマに沿った、先行研究の要約・レビューができる。②研究計画書の作成ができる。	
	総合研究Ⅱ	総合研究Ⅱでは、総合研究Ⅰでの執筆演習を受けて、実際に遂行中の研究精度を吟味し、研究結果を解釈しまとめる。各種専門領域別の担当指導教官の下、実施中の研究とその確認（研究計画の修正及び追加実験等の必要性）を段階的に行う。具体的には、学生が設定した研究テーマについて、①先行研究における要約の妥当性、②テーマに沿った疑問点、問題点及びそれに伴う仮説の適切性、③研究方法の透明性、④統計処理の有効性、⑤結果の解釈に伴う科学的根拠の信頼性等について議論し、研究の精度を高めていく。 到達目標：①論文の骨格を明確にする。②科学的根拠に基づいた研究結果の解釈ができる。	
	総合演習Ⅰ	これまでの様々な経験を振り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅱ」での「気づき」を「アイディア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。	
	総合演習Ⅱ	「総合演習Ⅰ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しいサービスの形にしていくために、「気づき」（データの獲得）を「アイディア」へと具体化するアプローチ（法則性を見出す）を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 ※「総合演習Ⅰ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅰ」の受講が望ましい	
	卒業論文	医療・福祉・介護などの現場や地域での実践を踏まえ、その中で見つけた課題をもとに、高い実践力と新しいサービスを創出する展開力を活かして、各分野の研究活動に積極的に取り組む。また、理学療法・作業療法における基本的な治療・訓練に関わる研究や、対象者の生活上の課題や地域生活における課題について、サービスの革新と新たなサービスを創出する職業現場に密着した研究体制を整え、対象者や地域社会に貢献できる研究に取り組み卒業論文にまとめる。	

授 業 科 目 の 概 要			
（健康科学部作業療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	大学入門	大学で自立的に学ぶために必要な、基本的事項を系統的に配置し、高校から大学教育にスムーズに移行できるようにする。大学教育の基本と学び方の基本を修得する。到達目標は、①大学で自律的に学ぶ心構えを身につけることができる。②自分が進む専門領域の基礎を知ることができる。③必要な資料や文献などを調査することができる。④文献などの内容を要約することができる。⑤定められた形式に従ってレポートを書くことができる。⑥レポートの内容を発表し、議論して自分の考えを再構成することができる。	
	基盤ゼミⅠ	基盤ゼミⅠでは、少人数編成のプレゼン教育を活用して、担当教員が準備する急激に変化する時代を生き抜くための課題群から学生が選択し、課題のあるべき姿と現実、その原因と解決策のオプションをまとめ、さらに最善の解決策へと絞り込んでいく思考過程を身につけていく。ゼミメンバーを2グループに分け、グループごとに課題を煮詰める作業を行い、教師が議長となりプロ（賛成）とコン（反対）に分かれて討論し、さらに立場を変えて討論を重ねることで、問題への認識を深め、より洗練された解決策を見出していくという方法をとる。 到達目標：①課題についての問題意識を明確にする。②課題の問題点を明確にできる。③課題の解決に向けての選択肢を示し、最善の選択肢を選ぶことができる。④課題に関して説得力ある形で人に伝える発信力とコミュニケーション力を身につける。⑤効果的なプレゼンテーションの組み立て方法を修得する。	
	基盤ゼミⅡ	基盤ゼミⅠで修得した、問題の核心を特定し最善の解決選択肢に到達するスキルを活用して、学生が自ら選択した課題に基づき、必要なデータ・資料を収集し、効果的な図表にまとめ、解決方法を本格的なプレゼンテーション形式で発表する。 自ら学ぶ姿勢を丁寧に鍛え、問題の核心を認知し、問題を掘り下げ、自ら必要なデータを調査し、論理的な思考過程を通して、最善の解決策を見出していく能力を育成する。 教師が議長となり、各人のプレゼンテーションについてプロコン・メソッドで討論し、さらに立場を変えて討論を重ねることでより洗練された解決策を見出していくという方法をとる。 到達目標：①課題を発見し、問題を特定することができる。②問題を掘り下げるのに必要なデータ・資料を収集し、効果的な図表にまとめることができる。③本格的なプレゼンテーション形式で課題の解決策を提示することができる。④自ら学び、調べ、解決策を探索する学修姿勢と力を身につける。	
	職業人の倫理と道徳論	「医の倫理」が社会的問題となっている。「倫理」とは、人間の尊厳にかかわる我々人間の行動に対する規範や基準の事である。特に、人間を対象とする保健・医療の分野では様々な倫理的問題が生じている。そのため、医療従事者には適切な倫理的判断能力が求められる。本講義を通じて、人として倫理的感受性や倫理的判断力、倫理的意志決定力を高め、医療やリハビリテーションの質の向上を目指すことを目的とする。 到達目標：①倫理とその意義・重要性を説明できる。②保健・医療の現場における倫理的問題とその成り立ち・影響について説明できる。③保健・医療の現場における倫理的問題を識別できる。④保健・医療の現場における倫理的問題に対する自らの考え・立場（価値観）を述べることができる。⑤保健・医療の現場における倫理的問題に対するよりよい判断・意思決定のあり方を説明できる。	

心理学	はじめて心理学を学ぶ人を対象に、心理学の基本的なトピックについて紹介する。 到達目標：心理学の基礎用語や代表的な理論について理解し、簡単に説明できるようになる。心理学の科学的な心の理解の仕方に触れ、日常生活で役立てられるようになる。	
哲学概論	西洋と東洋の主要な哲学思想の基本的内容を概観する。 到達目標：西洋と東洋の哲学思想についての基本的知識を修得する。物事を多面的に捉えることが可能であることを知り、自己の考え方を吟味する態度を養う。物事の表層ではなく、原理に迫る思考態度を身につける。	
健康科学概論	日本には古くより、医食同源という格言で表されるように、食事は命や健康と密接なつながりをもつものと考えられている。近年、食の多様化が進む中で、バランスの良い食生活を営むことは非常に重要である。特に、食事は生活習慣病など病気につながるところも多い。そこで、本講義では、健康の維持・増進に関わる正しい知識を習得し、適切な食事・運動・睡眠という一連の規律正しい生活習慣の確立を目指すことを目的とする。	
コミュニケーション英語	講義概要： 大学生が留学生と交流しながら、社会生活での様々な状況に英語で対処する内容で構成され、身近な話題から専門分野の基礎編まで、幅広く多様な出来事を英語で疑似体験する。授業内容は、CEFRのB1レベルである。 到達目標： ①日常的に出会う様々な話題について、自然な英語表現を使ってやり取りができる。 ②外国人と自然体で接し、説明すべき状況や自分の考えを筋道立てて発言できる。	
日本の歴史と文化	文化をとおして「日本（人）らしさ」を考え、再確認する機会を持つ。その手段として、①時代の流れの中で日本文化がどのように変容していったかを大まかにとらえ、②時代やテーマごとに代表的な事例をいくつか取り上げ、英語で説明しつつその背景を考える。 上記をとおして、日本文化の特徴たる概念「もののあはれ」「侘び・さび」「幽玄」などや、「恩」「義理」「恥」など日本人の精神性を具体性をもって語れるようにする。	
国際政治経済論	本講義では、現代社会に対する基本的な知識を習得し、日本および世界で現在起こっているさまざまな問題についての理解を深める。本講義を通して、国際社会に生きる日本人として向き合い、自らの将来について考える機会とする。なお、本講義は英語教材を使用するものとする。 到達目標：日本および世界で現在起こっているさまざまな問題について理解し、説明できる。	

基礎生物	生命の基本が細胞レベルで完結し、遺伝、分化、発生、病気、死といった生命現象が細胞の基本機能の上に成り立つしくみを理解する。核酸やタンパク質、脂質、炭水化物の構造といった基礎項目をはじめ、細胞内情報伝達、糖脂質代謝、神経生理、内分泌、免疫、疾患などの生物学や医学を学ぶために必要な基本事項を広範に取り扱う。 到達目標：①細胞の構成物質や小器官について分子レベルで、その働きを理解する。②遺伝子情報の転写と翻訳を理解する。③細胞分裂の仕組みを理解する。④物質とエネルギーの違いを理解する。⑤神経生理、内分泌、免疫の働きについて理解する。	
基礎物理	作業療法士の評価、治療について考察するためには、物理学の知識は欠くことができない。①物理学全般を教科書に沿って講義し、各章の概要を学ぶ。②例題や演習問題を解くことにより理解を深める。③教科書の章末問題が解けることを目標とする。	
情報収集と処理	コンピュータの普及によって、多様なデータベースを療法士自身で作成できるようになり、日々の療法士業務で活用している。本講義ではデータベースの基本的な構造とその作成について講義・演習を行う。また、論文を収集し、アブストラクトテーブルを作成する。 到達目標：①データベースの概念を理解し説明できる。②医療現場におけるデータベースの重要性を認識する。③基本的なデータベース作成技術を習得する。④データベースが持つ様々な意味を理解できる。⑤論文を収集し、アブストラクトテーブルを作成できる。	
統計分析の基礎	統計学は、社会に根づいた学問であるが初学者には苦手意識を抱きやすい学問である。そのため、本講義では、統計学の基礎となる分野を重点的に学ぶ。具体的な統計解析に習熟することを目的として、「統計学のための資料整理」、「確率論の基本」、「推測と検定」の理論について解説し、演習を行う。さらに、医学・保健学のための応用的な話題や活用できるデータ解析の手法を習得する。	
人間関係論	現代の医療における課題は、1. 医療が「人間相手の仕事」であること、2. 「病人相手」の職業であり、「真の助力的活動」でなければならないこと、3. この仕事を「職業として引き受けていくこと」の意味であると言われている。特に、人は代理不可能で、主体性と独自性をもった存在である。こうした、一人一人の患者と医療従事者（作業療法士）が適切で良好な人間関係を築いていくためには、人間の心を知る「了解」とそれに基づいたコミュニケーションが必要となる。そこで、助力的人間関係を築いていくためには何が求められるかについて理解すると共に、その具体的な方法を学ぶ。	
コミュニケーション論	本講義では、異文化コミュニケーション論の視点から、日本的コミュニケーションの諸特徴を考察しながら、日常における円滑な対人間コミュニケーションの技法を身に付けると共に、英語を国際共通語として、諸外国の人々とのコミュニケーションの際に発生し得るトラブルの文化的背景を学びながら、その解決方法を修得する。	
テーマ設定と研究方法	臨床現場で働くためになぜ研究マインド・研究スキルを身に付ける必要があるかを理解し、社会や対象者が抱える課題解決に寄与できる可能性を探ることができる。 到達目標：①研究テーマを設定する手順を理解する。②研究手法について理解することができる。	

職業専門科目	専門基礎分野	研究デザイン	各分野の指導教員のもと、研究計画の立案を通して、研究を実施するための必要な知識を段階的に獲得していく。具体的には、緒言、研究方法、結果及び考察というセクション別で、重要なポイントを学んでいく。 到達目標：研究の背景から予測される成果まで論理的に説明し、研究を実施するための研究計画を立案することができる。	
		メディカル英語	講義概要： 授業は、初診時の様々な基本的対応を踏まえて、療法士特有のリハビリ評価時から治療・訓練時の種々なる基本的対応へと進み、これらの対応の中でコミュニケーション技法を鍛え、さらにメディカルスタッフとのコミュニケーション技法へと発展させる構成とする。この過程の中で、医療分野で頻繁に使用される専門用語や表現の修得を基礎に置き、現場で普通に行われる英会話を鍛えるとともに、英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力を修得しその向上を図り、英文読解に必要な基本的な英単語を押さえ文法項目の確認を行い、医療分野に関連したトピックスの内容を理解する。授業内容は、CEFRのB1レベルをやや上回る水準に相当する。 到達目標： ①リハビリの臨床現場で使用される専門用語や表現が理解できる。 ②英語論文（症例報告や研究論文等）における読解能力が身につく、英語論文が理解できる。 ③リハビリの臨床現場で英語による基本的なコミュニケーション力を身につけることができる。	
		解剖学	作業療法士として従事する際に必要な知識（正常な人体の構造および機能）を学び理解する。①筋骨格系（四肢・体幹の骨・関節・筋肉）を学び理解する。②神経系を学び理解する。③感覚系を学び理解する。④循環器系～呼吸器系を学び理解する。⑤消化器系を学び理解する。⑥泌尿器系、その他を学び理解する。到達目標：正常な人体の各器官系の構造と機能を説明できる。	
		解剖学実習Ⅰ	上肢・下肢・体幹の骨・関節・筋について、骨模型等を利用した実習、体表解剖学を通して、機能解剖を学ぶことで、人体の構造を理解する。また、機能解剖の基礎知識を身につけ、骨標本や身体運動に適用することができるよう学ぶ。到達目標：体表にあらわれる構造を解剖学的に説明できる。身体各部の運動を各部の骨・関節・筋の機能を使って説明できる。	
		解剖学実習Ⅱ	生前のご遺志により献体されたご遺体を通して、上肢・下肢・体幹の骨・関節・筋および、全身の臓器に関して、人体の構造を理解する。岡山大学で行われる人体解剖実習見学を軸として、その前後に骨模型やウェブ上から得られる模型画像を用いて予習・復習を行う。解剖学の基礎知識を身につけ、身体運動に適用することができるよう学ぶ。到達目標：精緻に創られた人体に接することにより生命の大切さを実感できる。中枢神経系から出る脳脊髄神経・自律神経の走行を観察し、その機能を理解できる。胸部・腹部内臓の配置と構造を学び、その機能を理解できる。四肢において骨格系・筋系・脈管系・神経系を同時に観察することにより四肢の構造と機能を理解できる。	

生理学	ヒトの機能は運動や感覚系を中心とする動物性機能と、心臓循環、呼吸、消化器系などの植物性機能に分類される。本講義では、前半に動物性機能について学習し、運動機能や精神活動を含む神経機能、感覚器官、自律神経系といった広範囲な知識を理解する。後半に植物性機能について学習し、ヒトの生命活動に直結する生理機能を理解する。 到達目標：①細胞膜を介した物質の輸送が理解できる。②筋収縮の仕組みと運動神経による調節の仕組みを理解できる。③自律神経性調節の特徴を理解できる。④各種感覚の神経機構を理解できる。⑤高次脳機能に関わる脳領域とそのメカニズムを理解できる。⑥血液、循環について説明ができる。⑦呼吸の仕組みについて説明ができる。⑧消化と栄養素の吸収について説明できる。⑨尿生成と排尿について説明できる。⑩内部環境の維持に関わる機序が理解できる。	
生理学実習	解剖学・生理学・運動学の講義を踏まえ、環境の変化・運動に対する生体の反応や、恒常性維持について学ぶ。人と動物の生理機能を自らの手で測定し、その結果を解析・考察することにより、人体機能が維持されるメカニズムを理解する。また、この実習を通して、医療従事者として必要な姿勢や洞察力を養うことを目標とする。	
運動学	運動学は、リハビリテーション医療の基礎科学であり、作業療法にとっても基礎でありながら、将来にわたって学び続ける専門職の根幹をなす科目である。また、専門的な評価や治療の根拠となる知識であるため、最重要科目の1つといえる。本講義では、人の身体運動に関する基本的な知識を習得するために、次のことを目標とする。①運動学で扱う用語を知り、実際の身体運動と結びつけられる。②運動学に必要な生体力学の知識を身につける。③上肢、下肢、体幹の機能解剖と運動について知識を身につける。④姿勢、歩行についての知識を身につける。	
運動学実習	解剖学や運動学などの学問から習得した知識を踏まえ、正常な身体の機能解剖および身体運動を理解した上で、その観察および分析方法を学ぶ。また、観察・分析の結果を文章化できるようにする。 到達目標：①四肢・体幹の機能解剖および関節運動を理解する。②機能解剖を理解したうえで、作業療法評価の基礎となる触診技術を習得する。③関節運動を専門的に説明し、実際に運動で表すことができる。④正常動作を観察し、それを運動学・運動力学的に分析して運動学的用語でまとめる。⑤分析した内容をレポートにまとめ、発表する。	
人間発達学	人間発達学では、胎児期から老年期までの人間の成長について、また、その成長過程にある病気について学ぶ。本講義を学ぶことで、医療従事者である理学療法士・作業療法士として、また、人間として障害のある人およびその家族の思いを理解できるようになることが目標である。	
臨床医学概論	臨床医学とは、疾患によらず患者に対して行われる診断・治療についての学問である。本講義では、救急医学、画像診断学、薬学、栄養学などリハビリテーションに関連した分野を中心に学ぶ。 到達目標：①救急医療がわかる。一次救命処置（BLS含む）が実践できる。②X線、CT・MRI等の基礎知識を身につける。解剖と機能の関連性が説明できる。③薬物の作用様式と作用機序を説明できる。リハビリテーションに関連した主な薬物の薬理作用を説明できる。④各栄養素の性質や働きを理解する。栄養不良や過栄養の身体への影響を理解する。	

病理学	病理学とはヒトの病気の成り立ちを考え、明らかにすることである。さまざまな病気と向き合う作業療法士にとって欠かせない知識となる。本講義では、各器官系の病気を理解するために、まず、生体の基本反応を学び、患者の全体像をとらえる思考力を涵養した上で、各器官系の代表疾患について学ぶ。 到達目標：①生体の基本反応が理解できる。②病因・病態（主に癌）を理解できる。③各種疾患の病理について理解できる。	
精神医学	精神医学は一般には馴染みがない学問のため、学生の多くが初学者である。そこで、本講義は、精神医学の総論を主体とし、精神医学の概要を学ぶ。 到達目標：①精神障害の成因（身体的原因と精神的原因）について理解できる。②精神機能の障害、およびその障害の際に出現する精神症状について理解できる。③疾病の特徴と治療の概要を理解する。	
整形外科学	整形外科の基礎で、特に最近の進歩に即応した知識を習得し、次いで機能解剖と臨床診断・治療を総論的にまとめ、リハビリテーションにつなげる。また、初歩的・基本的項目だけを学ぶのではなく、常に新しい知見を取り入れた講義を展開する。主に、整形外科に関連した疾病の定義や種類に関すること及び関連の作業療法について学ぶ。 到達目標：①整形外科に関連した疾病の概要および治療について理解する。②代表的な整形外科疾患に関連した治療、後療法について理解する。	
内科学	呼吸器、循環器などの内科学に関連した主要疾患の定義、特徴、病態および治療を概観する。 到達目標：①呼吸器、循環器等の内科学に関連した各種疾患の概要がわかる。②各種主要疾患の治療の概要がわかる。③各種主要疾患へのリハビリテーションの概要がわかる。	
神経内科学	神経内科とは、脳や脊髄、神経、筋肉といった運動や感覚を制御する仕組みに起こった病気について内科的な診断・治療をする医学である。本講義では、神経内科学の主要疾患の特徴や診断、治療について概観する。 到達目標：①神経内科学の主要疾患の原因や特徴（症状など）、治療など概要を理解する。②神経疾患を診断するための各種検査方法および異常所見を理解する。	
小児科学	小児は大人の「小型版」ではない。成人との相違点と成長・発達にしたがって変化する各年齢における小児の特性を、理解し、問題点を解決できる力を養えるようにする。特に、小児に特有の疾患や、成人との相違に、主眼を置き解説する。	
リハビリテーション医学	病気を理解することで、障がいなどの後遺症（機能障害や能力低下）を理解することができ、根拠に裏づけられたリハビリテーションが実践できる。そこで、本講義はリハビリテーションの対象となりやすい病気について、疾病の特徴、診断、治療について概説する。これにより、各疾患の診断や治療の概要や各疾患で生じる障がいの主なリハビリテーションが概説できることを目的とする。 到達目標：①各疾患の特徴や診断、治療の概要、各疾患で生じる障がいの主なリハビリテーションが概説できる。②作業療法士として患者の機能回復・能力回復を支援することができる知識を習得する。	

専門	リハビリテーション概論	本講義では、リハビリテーションの歴史・定義・目的をはじめ、医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションについて学ぶ。また、理学療法・作業療法の医学的リハビリテーションでの位置づけについても学び、チーム医療における連携について学ぶ。さらに、リハビリテーションと保健福祉・行政など社会的資源との関係性について学ぶ。 到達目標：①リハビリテーションの定義を理解できる。②医学的リハビリテーションにおける理学療法・作業療法の位置づけを理解できる。③リハビリテーションにおける外的環境について理解できる。④自立生活について理解できる。⑤ 就労支援について理解できる。	
	地域包括マネジメント論	地域包括ケアシステムについて理解を深めるとともに現場におけるマネジメントおよび介入・支援方法について学ぶ。特に、高齢化が進む現在におけるケアマネジメントの実際を理解する。また、各社会保障制度（障害者福祉、生活保護、介護保険、児童福祉等）におけるケアマネジメントの現状と関連性と理解を深める。 到達目標：①地域包括ケアシステムとケアマネジメントの概要と方法について理解する。②ケアマネジメントの具体的な支援方法について理解する。③地域包括ケアにおける多職種連携とマネジメントを理解し、他者と協力する力を身につける。 （オムニバス方式/全10回） （⑧ 浜田淳：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授/4回） 1回）ガイダンスーなぜ「地域包括ケアシステム」が必要なのかー 2回）岡山市の地域包括ケアの今後のあり方をディスカッションする。 3回）岡山地域医療構想・地域包括ケアと療法士の役割とは何か。 4回）岡山地域包括ケアの療法士の関わり方をディスカッションする。 （⑨ 岸川和忠：岡山市保健福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課長/2回） 1回）岡山市の地域包括ケアの現状、課題 2回）地域包括ケアシステム構築における基礎自治体の役割 （⑩ 遠藤浩：岡山県地域包括ケアシステム学名誉会員/4回） 1回）多職種連携と地域包括ケアⅠ（他職種連携の必要性、阻害要因） 2回）多職種連携と地域包括ケアⅡ（他職種連携の重要性についてのディスカッション） 3回）先進事例の研究ー介護保険サービスの充実強化、医療との連携強化に関する取り組みー 4回）総括と学習到達度の確認テスト	オムニバス方式 同時に行う学生数：120人 教育上必要な理由は、本学部が育成する人材像を達成する上で、地域包括ケアシステムを理解することは極めて重要である。岡山地域の地域包括ケアシステムの専門家や研究者、行政職から岡山地域の地域包括ケアシステムの現状や将来像について直接授業を受けることで、地域のニーズや課題を学ぶことができ、十分な教育効果が期待できる。講師陣は多忙なため、何度も招聘することが困難なため合同授業としている。なお、大講義室（225名収容可能）を利用するため、教育上支障はない。
	多職種連携論	今後の社会状況では、保健・医療・福祉の統合において、臨床では各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に総合的に支援することが求められる。全人間的視点でアプローチを行うには、関連職種が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解すると共に、職務の関連性や連携について理解することが必要となる。 到達目標：①専門職種間連携の概要を理解し、自職種について説明できる。②保健・医療・福祉に関わる職種の専門性と関連について説明できる。③職種間連携実践のあり方について概説できる。	
	作業療法概論	本講義は、導入として作業療法の概要を理解し、作業療法に対する探求心を育成することを目的とする。 到達目標：①作業療法士の活動の場について理解する。②作業療法の定義を理解する。③作業療法の治療的意味について理解する。④作業の分類について理解する。⑤生活と作業を関連づけて理解する。⑥作業療法ガイドラインの概要を理解する。⑦作業療法の世界や日本の歴史について理解する。⑧作業療法の現状と課題について理解する。	

分野	基礎作業学	作業療法の基礎である「作業」や「活動」について理解を深める。手段として用いられる作業や作業活動の成り立ちについて学び、作業活動における運動学的・精神的側面を理解し、作業がもつ治療的要素を関連づけ、作業の奥深さを理解する。「作業とは何か」を知り、作業に関する理論を学び分析の方法について深く理解し、作業療法と作業活動の関係について学習する。そして、作業療法領域における作業の活用方法を学ぶ。	
	基礎作業学実習Ⅰ	作業療法の「作業」を熟考し作業療法の独自性を理解することを目的とする。 到達目標：①集団活動の計画・立案方法を学ぶ。またACISを用いてコミュニケーション評価を理解する。②園芸療法・籐細工・絵手紙・マクラメ・陶芸の実践から、治療的意義や作業工程・道具等の扱い、段階づけを理解する。	
	基礎作業学実習Ⅱ	作業療法の「作業」を熟考し作業療法の独自性を理解することを目的とする。諸種の作業活動の特性を把握し、疾患特性および障害特性に応じた活用方法について実習を通して学ぶ。臨床場面を想定して実践をととして臨床技能を高める。	
	作業療法セミナーⅠ	3年間で身に付けた作業療法に関する知識を総括し内容を理解することを目標とする。小テストや模擬試験を行うことにより、作業療法に関する知識の再確認を行うと共に、知識を定着させる。特にこのセミナーでは基礎・専門基礎科目の知識を重点的に身につけることを目的とする。	
	作業療法セミナーⅡ	「作業療法セミナーⅠ」の内容をもとに専門分野の知識を総括し内容を整理して身につけることを目標とする。小テストや模擬試験を行うことにより、作業療法に関する知識の再確認を行うと共に、知識を定着させる。特にこのセミナーでは専門科目の知識を重点的に身につけることを目的とする。	
	作業療法管理学概論	作業療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。作業療法倫理と作業療法部門の管理、作業療法教育について理解を深め、より質の高い作業療法を提供するため、保健・医療・福祉に関する制度（医療保険・介護保険制度を含む）の理解と、組織運営に関する総合的能力を身につける。チームアプローチを基盤とした組織の管理と運営の基礎応用について教授する。また、作業療法士として就業するうえで、人・物・金・時間・情報の管理と人間関係の構築、倫理観や、病院、施設の組織および作業療法施設基準、診療報酬等を含む作業療法部門の管理・運営について学ぶ。 到達目標：①組織における管理の重要性を説明できる。②施設内の管理法について説明できる。③リーダーシップの重要性を説明できる。④作業療法倫理を理解できる。⑤医療保険制度、介護保険制度を理解できる。⑥職場管理、作業療法教育について理解できる。	
	作業療法評価学	作業療法はどのような人たちに対し、どのようなことを目的として、どのように具体的な手段を用いて介入するのかを示しながら作業療法評価に必要な視点を学ぶ。また、「作業」や「作業活動」が人間の生活の中でどのように位置づけられているかを理解しつつ、作業療法実施に必要な作業療法評価と分析について理解を深める。主な作業療法の対象領域における評価の基本的な理論および方法について学習する。	

作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法の評価における基礎的な技術・知識の習得を目指す。講義で教授した検査・測定技術については自主的に講義外でも練習を重ねること。1つ1つを丁寧に何度も繰り返し正確な技術を身につけることが必要不可欠となる。修得した評価技能を実技試験にて評価する。 到達目標：①作業療法評価法における概念・種類・目的を説明することができる。②評価から治療・訓練計画に至るまでの概念および解釈の仕方（一部）を理解する。③触診による体表解剖を理解することができる。④実技指導により評価技術の向上を図ることができる。⑤観察、面接、形態測定、関節可動域測定などを実施できる。	
作業療法評価学実習Ⅱ	各評価の概要を学び、その後、実技を通して技術を習得する。作業療法領域に共通する評価法の知識と技術を習得する。講義で教授した検査・測定技術については自主的に講義外でも練習を重ねること。修得した評価技能を実技試験で行い評価する。 到達目標：次の評価法が習得できる。①徒手筋力検査法②意識の評価③バイタル測定④精神機能・作業療法評価⑤その他	
作業療法評価学実習Ⅲ	領域共通の評価法を習得する。評価実習に対応する基礎を習得する。評価実習で経験したケース1症例について、統合解釈し、学生・担当教員の前でプレゼンテーションを行う。修得した評価技能を実技試験にて評価する。 到達目標：次の評価法（①～④）を習得できる。①筋緊張検査②協調性検査③脳神経検査④その他 次の評価法を（①～⑦）復習する。①形態測定②関節可動域測定③筋力検査④感覚検査⑤反射検査⑥姿勢反射検査⑦その他 経験したケースを共有し、様々な臨床推論を理解し、説明できる。	
基礎作業療法治療学	作業療法の実践場面で用いる様々な技能に関する理論を学び、適切に活用する力を身につける。様々な領域の作業療法治療場で活用される諸種の理論や概念の基礎を学ぶ。作業・作業活動を手段として用いる作業療法にとって、作業・作業活動の適切な利用が求められる。その為には、手段として用いられる作業・作業活動の成り立ちについて、作業・作業活動の分析の実際について学ぶ。 到達目標：①作業活動の運動学的側面を理解し分析できる。②作業活動の精神的側面を理解し分析できる。③作業活動の治療的要素を理解し説明することができる。④作業活動の治療要素を関連づけながら理解し説明できる。⑤障害のある「ひと」の評価と作業活動の分析の関連性を理解し説明できる。⑥作業療法の実践過程と作業分析の必要性について理解し説明できる。	
基礎作業療法治療学実習Ⅰ	実習を通して医療人として求められる基本的な技能と支援技術を修得する。作業療法の場面に必要な個別および集団におけるコミュニケーションの知識と交流技能を知り実習を通して実践方法を修得する。また集団を活用した作業療法の効果について実践を通して考えるとともに、臨床場面での活用方法を修得する。	

基礎作業療法治療学実習Ⅱ	実習を通して医療人として求められる基本的な技能と支援技術を修得する。介助の基本原則・障害別介助の特徴と留意点を学習する。正常動作や介助に利用される「てこの作用」を実際に体験学習する。義肢・装具に関する基礎的知識を学び、その種類と構造や適合判定について学ぶ。スプリントの作成実習を通じて、道具の使い方や材料の加工方法について理解する。 到達目標：①福祉用具の特性を学び、対象者に適した福祉用具の選択ができる。②日常生活の基本肢位である“座位”について考え、座ることへの支援（シーティング）が行える。③生きていくうえで不可欠な“食行動”について、その問題（摂食・嚥下障害）と介入手法を理解する。④ADL評価尺度を適切に使用できる。⑤作業療法援助法について理解する。⑥片麻痺患者の身体特性・心理特性を学び、日常生活支援方法を修得する。	
身体障害作業療法学Ⅰ	作業療法の対象となる疾患特性や障害特性に応じた治療計画立案から治療実施までの一連の流れを疾患および障害像ごとに理論的に学習し、実践力を身につける基盤を構築する。本講義では、主に神経系疾患に対する概要を理解し、各種疾患に対する評価・問題点の抽出、統合解釈から治療過程について教授し、各疾患の特性に応じた作業療法について学ぶ。 到達目標：①各障害、疾患について、その特性を概説できる。②各障害、疾患に応じた評価を選択し、実施できる。③各障害、疾患に応じたADLへの影響を説明できる。④各障害、疾患に応じた生活指導が行える。	
身体障害作業療法学Ⅱ	作業療法の対象となる疾患特性や障害特性に応じた治療計画立案から治療実施までの一連の流れを疾患および障害像ごとに理論的に学習し、実践力を身につける基盤を構築する。本講義では整形外科領域を中心とした作業療法について学ぶ。ハンドセラピー、肘関節、肩関節に生じる特異的疾患ならびに、RA、腰部・下肢整形疾患による機能障害と能力低下を理解し、それぞれの特性に応じた作業療法を習得する。 到達目標：①各障害部位、疾患について、その特性を概説できる。②各障害部位、疾患に応じた評価を選択し、実施できる。③RA、腰部・下肢整形疾患によるADLへの影響を説明できる。④RA、腰部・下肢整形疾患患者への生活指導が行える。	
身体障害作業療法学Ⅲ	作業療法の対象となる疾患特性や障害特性に応じた治療計画立案から治療実施までの一連の流れを疾患および障害像ごとに理論的に学習し、実践力を身につける基盤を構築する。本講義では、呼吸器・循環器・代謝性疾患患者に作業療法を行う際に必要な知識を修得する。疾患別に基本的なアプローチ法やリスク管理について講義を行う。 到達目標：①日常生活動作における呼吸・循環反応の特徴を理解する。②虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、糖尿病を中心とした生活習慣病、がん患者に対する基本的な作業療法の実践方法について理解する。③内部障害を抱える患者の安全管理が実践できるようになる。	
身体障害作業療法学Ⅳ	作業療法の対象となる疾患特性や障害特性に応じた治療計画立案から治療実施までの一連の流れを疾患および障害像ごとに理論的に学習し、実践力を身につける基盤を構築する。発達障害児・者を治療するうえで基礎となる定型発達を学習する。また、定型発達を理解した上で、異常性を示す脳性麻痺および自閉症などの各疾患について、一般的な臨床像について理解を深める。 到達目標：①定型発達段階を説明できる。②脳性麻痺の分類と各類型別運動発達を理解し、説明できる。③障害特性を理解し、説明できる。④各疾患について、治療計画を立案できる。	

身体障害作業療法実習Ⅰ	主要な病態・障害像に対応したアプローチを実践するための技能を修得する。本講義では、各種神経系疾患患者に対する作業療法の実践方法を実習を通して学ぶ。疾患に応じたリスク管理や治療・訓練に必要な技術を学び実践力を高める。各種神経疾患に対する基本的かつ応用的な作業療法治療・訓練・指導技術を修得する。	
身体障害作業療法実習Ⅱ	主要な病態・障害像に対応したアプローチを実践するための技能を修得する。本講義では、整形外科領域における作業療法の実践方法を実習を通して学ぶ。疾患に応じたリスク管理や治療・訓練に必要な技術を学び実践力を高める。各疾患に対する基本的かつ応用的な作業療法治療・訓練・指導技術を修得する。	
身体障害作業療法実習Ⅲ	主要な病態・障害像に対応したアプローチを実践するための技能を修得する。本講義では、内部障害領域における作業療法の実践方法を実習を通して学ぶ。疾患に応じたリスク管理や治療・訓練に必要な技術を学び実践力を高める。各疾患に対する基本的かつ応用的な作業療法治療・訓練・指導技術を修得する。	
老年期障害作業療法学	加齢による身体的、心理的、社会的な変化や老年期障害に対する評価、治療に関する概要を理論的に学ぶ。また、脳損傷に起因する高次脳機能障害について、損傷状況、病巣特有の症候を理解し、それぞれの状態に応じた評価と作業療法を学ぶ。認知症あるいは認知症予備軍に対する作業療法を実践できる知識・技術を身につける。 到達目標：①高齢者の尊厳と接し方を理解し、説明できる。②老化について説明できる。③老年期障害の生活・障害構造、社会資源を理解し、具体的援助を想像できる。④老年期作業療法で活用できる検査・測定方法・作業療法アプローチが説明できる。	
老年期障害作業療法実習	地域と連携し、地域住民との交流の場を設け、各世代・各疾病による地域生活における困難さや不便さを理解し、評価の実践、生活指導を介入する体験を通じて、より高度なコミュニケーション能力と思考力を養う。また、地域で生きることの困難さを理解することで、新しいサービスを生み出す創造性を養う機会とする。 到達目標：①地域住民とのコミュニケーションにより、対象者の地域生活の困難さを理解し、説明できる。②各種評価における実施方法（リスク管理含む）を身に付け適切に実施できる。③生活の不自由さや評価結果を統合解釈し、新たな生活を想像し、生活指導ができる。	
精神障害作業療法学	作業療法の対象となる疾患特性や障害特性に応じた治療計画立案から治療実施までの一連の流れを疾患および障害像ごとに理論的に学習し、実践力を身につける基盤を構築する。 精神科作業療法における治療的介入の方法・プロセスについて理解することを目的とする。また、精神科作業療法の主たる対象疾患の臨床像を理解し、その評価方法・治療・指導・援助内容について理解する。 到達目標：①各種評価について理解する。②各疾患の臨床像について説明できる。③各疾患に応じた作業療法評価について説明できる。④各疾患に応じた治療・指導・援助について説明できる。⑤精神障害分野における作業療法の役割を説明できる。⑥歴史、関連法規、制度について説明できる。⑦精神障害作業療法の実践と治療過程について説明できる。 ※対象疾患：統合失調症、気分障害、物質依存、人格障害、神経症、摂食障害、てんかんなど	

作業療法演習Ⅰ	身体障害、老年期障害領域において臨床場面で遭遇する多様な患者に対して、患者に適した作業療法を実施するために演習を通じて知識の統合を図る。事例やペーパーペイシェントを活用し作業療法評価から治療プログラムの立案までの基本的な臨床的思考能力を鍛える。また、実際の訓練や治療場面を想定しながらアプローチ方法を組み立て、実技を交えて実践し知識と技術の定着を図る。	
作業療法演習Ⅱ	精神障害、発達障害領域において臨床場面で遭遇する多様な患者に対して、患者に適した作業療法を実施するために演習を通じて知識の統合を図る。事例やペーパーペイシェントを活用し作業療法評価から治療プログラムの立案までの基本的な臨床的思考能力を鍛える。また、実際の訓練や治療場面を想定しながらアプローチ方法を組み立て、実技を交えて実践し知識と技術の定着を図る。	
日常生活活動学	人々の日常生活を医療・福祉の観点から理論的にとらえ対象者のアプローチを行うための基礎的能力を養う。 ADLの概念を理解し、ADLの評価手法、福祉用具の構造、種類、処方についての理解を深める。そして、疾患・障害によって異なるADL障害の特徴を知り、日常生活動作の自立および介助量の軽減に向けた指導、訓練方法を学ぶ。また、在宅や施設で生活する高齢者・障害者の生活を支援するために住環境整備に関する知識と関連づけ自立的な生活にあたって必要な福祉機器について、その種類、適応について学習する。 到達目標：①日常生活活動(ADL)の概念および評価方法について説明できる。②福祉用具をあげて、その適応・使用法・指導法について説明できる。③疾患・障害によって異なるADL障害の特徴およびその訓練方法および指導方法について説明できる。	
日常生活活動学実習	対象者における日常生活動作の自立および介助量を軽減するための具体的な支援技術と方法について実践を通して学ぶ。対象者の多様なニーズや個人因子・環境因子などの背景を考慮した支援技術を身につける。対象者に合わせた介助法、自助具・福祉用具の適応方法、動作指導に必要な技能を身につける。	
義肢装具学	リハビリテーション医学における義肢・装具の意義と機能を学ぶ。義肢・装具の適応となる疾患や障害を学び、義肢・装具の構造と機能を学び、疾患や障害に対する義肢・装具の適応と適合判定能力を養う。さらに、動作訓練に使用される義肢装具とその機能を学習する。 到達目標：①義肢装具の意義と機能が理解できる。②義肢装具の適応となる疾患や障害が理解できる。③動作訓練に必要な義肢装具を選択できる。	
応用治療技術実習Ⅰ（徒手療法）	この講義では、関節運動学を主に学ぶ。関節内運動の治療を中心に関節に対しての治療手技を実習において学ぶ。関節内運動を考慮した治療を行うには、高度な技術と知識が必要であるため、この講義では、各関節の関節内運動を理解し、関節内運動を実際に使用して治療できることを目標とする。この単元では、触診から上肢下肢～体幹の関節をターゲットとする。	

応用治療技術実習Ⅱ（リハビリ工学）	工学技術をリハビリテーション分野に応用した、治療やトレーニング、生活支援、介護支援に関するシステム・装置などについて学習する。具体的には、リハビリテーションロボット、介護ロボット、入力・操作補助装置、コミュニケーション補助装置、移動・移乗支援機器、ICTを利用した支援システム、機能的電気刺激などを理解し応用することができる。	
応用治療技術実習Ⅲ（セルフコンディショニング）	セルフコンディショニングや予防的観点から有用な運動指導方法について学習する。運動学習理論に基づくトレーニングやストレッチング、姿勢を整えるためのボディワークを実習を通して実際に行い、身体への気づきを通して身体感覚を高め、自己調整力やストレス対処能力の向上を図ることを目的とする。身体の動きに対する知識を深めるとともに、運動プログラム指導を立案し実習することで、臨床の場で活用できる高度な指導技術の習得を目指す。 到達目標：①運動学習理論に基づくトレーニングを立案できる。②運動学習理論に基づくトレーニングを行うことができる。③運動学習理論に基づくトレーニングを指導できる。	
生活環境学	地域リハビリテーションに基づき、地域・家庭に暮らす高齢者や障害者の生活環境を理解する。限られた環境の中で、QOLやADLの低下をもたらす環境の障壁について学習をすすめ、住環境整備の評価、改善策の実践や指導が行えるように知識を身に付ける。 到達目標：①障害者、高齢者を取り囲む生活環境の障壁（バリアー）を理解し説明できる。②QOLの向上を目指した生活環境整備の基本的知識、基本的支援技術を理解し、説明できる。③障害者・高齢者のための居住環境調整案（住宅改修案）を作成し、生活支援ができる。	
地域作業療法学	地域リハビリテーションの理念や現状を学び、作業療法士の役割を理解し、各地域ニーズに応答できる創造力を養う。日本作業療法士協会が開発した、作業療法介入のツールである生活行為向上マネジメントを理解し、各種シートを実践できる能力を養う。 到達目標：①地域社会における現状と課題を説明できる。②地域における関連制度と関連法規を理解し、説明できる。③地域包括ケアを理解し、自立支援における作業療法士の役割を説明できる。④生活行為向上マネジメントを理解し、ペーパーペイシエントで各種シートを作成できる。	
予防作業療法学	高齢者の介護予防や健康増進は、社会的関心事である。特に認知症の発症や進行予防は介護予防・健康増進の重要課題である。近年、生活習慣病やうつ病の予防、運動習慣などの修正可能な要因が発症リスクを減少することが示され、作業療法士などの医療専門職による適切な介入が期待されている。予防作業療法学では、認知症などの疾病や要介護状態に陥るリスクのある状態を防ぐための支援を学ぶことを目的とする。予防医学を基礎とし、作業療法の豊富な知識を保健・健康関連分野の予防など幅広い分野へ応用するための知識と実践的方法について学ぶ。 到達目標：①予防作業療法の必要性を説明できる。②高齢者の特性を説明できる。③認知症の発症と進行に関連する要因を説明できる。④高齢者と認知症の人の転倒予防法について述べることができる。⑤Frailtyについて説明できる。⑥予防作業療法での介入方法を述べることができる。	

		見学実習	実習指導者のもとで、実際の作業療法場面を見学し倫理の重要性を学ぶとともに、実習指導者の他職種とのコミュニケーション場面を見学し、チーム医療の実際を観察する。また、対象者が抱える苦悩や痛みに基づき、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスの重要性を認識し、基盤的資質を涵養する。 到達目標：①倫理の重要性と作業療法業務の概要を理解する。②対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある態度を学ぶ。③臨床現場で対象者や作業療法の現状を知り専門職業人としての意識を高め、自身の課題を発見する。④関連職種と関わりを理解する。	
		評価実習	基幹科目で学んだ専門知識・技術のもとに、実習指導者の指導により情報収集、評価（検査・測定）を実践することで評価の重要性を理解する。また評価結果の解釈までの作業療法評価過程を臨床場面で実践し、解釈・統合する思考力を涵養し、多職種との連携について理解を深める。対象者が抱える苦悩や痛みに共感し、専門職業人としての責任ある態度と徹底的にヒューマンなサービスを基盤として、展開科目で学んだ他分野の視点を生かし、問題意識を育み、対象者の課題や地域の課題への「気づき」を得る。 到達目標：①対象者の苦悩を知り、対象者の目線に立った誠意ある対応と専門職業人として責任ある姿勢を修得する。②臨床現場で対象者に適した情報収集・評価（検査・測定）方法の選択方法を修得する。③対象者へ実施可能な評価（検査・測定）技術を修得する。④実施した評価結果を統合解釈し、対象者を分析する思考力を修得する。⑤チーム医療における作業療法士の役割を理解する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等へ意識を向け、その影響・変化・課題に気づく。	
		総合実習Ⅰ	基幹科目で学んだ専門知識と技術と評価実習の成果を基礎とし、実習指導者の指導のもとで、評価・治療計画の立案・実施・考察という作業療法の全過程と関連職種との連携を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力を身につける。また、関連する他分野から学んだ知識を活用し、評価実習における問題意識を深め、対象者の抱える課題や地域の課題について「気づき」を育て、問題を特定化していく。 到達目標：①基本的な作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握する力を修得する。③対象者に必要な治療計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という作業療法の全過程を修得する。⑤関連職種と情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑥対象者を取り巻く環境および制度等を理解し、その影響・変化・課題に気づき、まとめる力を修得する。	
		総合実習Ⅱ	実習指導者の指導のもと、評価・治療計画の立案・実施・考察という作業療法の全過程を実践し、多職種連携の実際を体験し、作業療法士に必要な問題解決能力と実践力に磨きをかける。 また、専門技能錬成プログラムと展開力育成プログラムを有機的に組み合わせて運用することにより、職業現場を主導できる高い実践力と豊かな創造力を養うことを目的とする。 専門技能錬成プログラムは、理論に裏付けられた深い応用力を修得できる応用治療技術実習と総合実習Ⅱを連動させることにより、対象者の疾病への理解や各種治療に至る思考過程を練磨し、一段高い実践力を身につける。また、展開力育成プログラムのサービス革新モデルあるいは地域活性化モデルで学んだ他分野の視点と知識を活用して、対象者の生活上の課題や地域生活における課題の解決に向けて、「気づき」を深め、アイデアを創出し、サービス革新と新たなサービス創出につなげていく豊かな創造力を養う。 到達目標：①諸種の作業療法評価技術を修得する。②作業療法評価結果を分析し、対象者の全体像を把握できる。③対象者に必要な作業計画の立案方法を修得する。④評価・治療計画立案・実施・考察という作業療法の全過程を体験し実践する。⑤対象者に必要な作業療法治療技術・指導・支援方法と応用力を修得する。⑥チーム医療における作業療法士の役割を認識し、情報交換ができるコミュニケーション能力を修得する。⑦対象者を取り巻く環境および制度等の課題について、「気づき」を深め、解決案の提案につなげていくことができる。	

	ヒューマンサービス論	人間の尊厳と多様性を理解し深い人間理解を基盤として、サービスを提供する側、受ける側の2つの視点から、ヒューマンサービスとは何かを探究し、活用方法について学び、組織的、社会的観点を踏まえた人の痛みや悲しみが受け止められる鋭い感性と豊かな人間性を身につける。	
	人間形成論	ヒューマンサービスを提供するためには、人間のライフサイクルの全体と異なる世代のつながりを重視しなければならない。このことについて、社会の現状・ホスピタリズムなどの様々な事象を手がかりにして、社会生活における人間形成について理解を深める。開かれた生命として人間の特性を理解し、現代社会の様々な問題に焦点をあて課題解決策を模索する。この科目を履修することでサービスを創造する基盤的能力を養い、人間のライフサイクルに応じたヒューマンサービスを創造する力を身につける。	
	家族関係論	家族関係を中心とした人間相互の関わりの成り立ちとその意義を考察する。「ケアの場」としての家族機能や、そこで生じやすい「依存」の問題を軸として、人間的なコミュニケーションの可能性と問題点を追究する。到達目標：現代社会における家族関係とその諸問題についての知識を身につけ、また受講者自身の日常的な人間関係とその基盤を見つめ直すことを通じ、人間相互の関わりに固有の意義と豊かさを理解する。	
	地域社会論	概要：「インターネットが普及し始めた1990年代、どこにいても仕事ができるようになるので東京一極集中は終わる。これからは地方の時代だ」と言われたが、現実には、さらに東京一極集中が進み、地方はどんどん疲弊していった。政府主導の地方創生もなかなか効果が出てこない。なぜなのだろうか。その原因は、地域そのものにあると考えられる。岡山を中心にして、本当に地域が再生するには何をすべきかを考える。到達目標：1. 地域に住み続けながら「食べていく」ための方策を見出せる 2. 横並びの地方創生論ではだめであることが分かる。3. 新規事業創造の重要性を認識できる。	
	コミュニティ形成論	地域で住民が共に支えあいながらいきいきと生活できる環境づくりを支援するためにはコミュニティを形成するための方法を修得する必要がある。そこで、地域コミュニティの機能に焦点をあて、地域のコミュニティを活性化させ対象者と地域社会を結びつけるために必要な知識を修得する。 到達目標：①地域コミュニティに関心を持つ。②持続可能なコミュニティ形成に必要な基本を理解する。③対象者と地域社会を結びつけるための方法を理解する。④地域コミュニティを活性化させるコーディネート力やマネジメント能力を修得する。	
	地域生活と健康	地域社会や学校教育現場での運動・スポーツ活動に基づいた至適健康教育プログラムの提供及び構築を、運動生理学に基づいた科学的根拠を基盤としながら、健康的側面(健康の維持・増進)と競技的側面(競技力の向上)の両側面から検討していく。 到達目標：①各種対象者（成長期の男女、高齢者、身体障害者等）やライフステージに合わせた健康の維持・増進のための健康教育の基礎的知識を身に付ける。②地域社会や学校教育現場に対する科学的情報の適切なフィードバックを考える力を養う。	
	特別支援教育	教育現場で期待されている作業療法士の役割を広く知り、特別なニーズを持つ子どもをが地域で生活するための支援方法について学ぶ。教育現場における作業療法士の介入が広まっているなかで学校内外の機関および専門家と連携するための基礎的な力を身につける。	
	人間工学	人をとりまくさまざまな物や環境との整合性を図る人間工学の基礎を学ぶ。人間工学における基本的な考え方を理解し、人間工学の原則に基づく新たなサービスを創造する力を身につける。	

ライフサイクル論	様々なライフサイクル論を知り、その上でエリクソンのライフサイクル論について各発達段階における課題を知り、対人援助場面でライフサイクルの観点から対象者の理解につなげることができる視点を持つ。	
岡山経営者論	地域に必要なサービス創造（Service Innovation）をおこなうためには、地域に根差したサービス創造をおこなっている経営者の方々に直接講義を受け質問し議論することは有意義である。本講義では、岡山の経営者ならびにイノベーターを招き個人、起業、新規事業展開、海外事業展開、地方創生などをテーマにオムニバス形式で講義を行う。 岡山という地域の中で、「サービス」をどのように展開すれば地域創生のための「創造（イノベーション）」が起こせるのかを学ぶ、これまで大学で学んできた知見を活用し「サービス創造」をおこなうための発想力を身に付ける。 （オムニバス方式/全15回） ⑪ 浅利正二：学長/5回） 1回）オリエンテーション／地域創生・地域活性がなぜ求められるか？ 2回）岡山地域の経済情勢／地域創生・地域活性に必要な発想・思考とは 3回）「病院経営について」 元病院長として、患者・地域のニーズを把握する手法や、働き方改革における職員の ニーズに応答する手法、病院経営戦略における施設連携手法について。 4回, 5回）総括：地域活性化に求められるアイディアと精神（グループワーク） これまでの各経営者の発想力や手法についてグループで整理し、新たなサービスの創出に至る思考過程を具体化する。 岡山の経営者から学ぶ新たなサービスの創造と概要の構築（個人ワーク） 対象者や地域の活性化に求められるサービスとは何かを創造し、対象者や地域における新しいサービスを創造する。 （29 二神雅一：（株）創心會/1回） 「新事業展開と多角化」 作業療法士として起業することになった背景、新サービスの考え方、起業化の方法。 （28 山根一人：（株）アールケア/1回） 「サービス創出から起業化まで」 理学療法士として起業することになった背景、新サービスの考え方、起業化の方法。 （30 小山敏章：（株）ケイ・クリエイト/1回） 「拡大戦略と今後の展望について」 病院勤務の薬剤師から調剤薬局を起業するに至った経緯、多店舗展開（拡大戦略）の手法、経営哲学。 （31 上田泰輔：（医）プライムケア/1回） 「新規市場への参入と分析について」 訪問歯科、デイサービス事業を起業した経緯、新規市場への参入とその分析方法。 （32 大塚学：（株）大塚デザイン/1回） 「ブランド戦略について」 独自の感性と視点で、ものづくりに携わり、岡山を代表するNO.1デザイン会社としてのブランドの確立、ブランディング手法、浸透方法について。	オムニバス方式 同時に行う学生数：120人 教育上必要な理由は、さまざまな分野の経営者ならびにイノベーターから直接教授していただくことで、サービスの創造に欠かせない思考と創造力を育むために必要であり、他分野の視点やアイディアを形にする方法を学ぶため、十分な教育効果が期待できる。講師陣は多忙なため、何度も招聘することが困難な岡山を代表する経営者ならびにイノベーターとしている。なお、大講義室（225名収容可能）を利用するため、教育上支障はない。

		(33 田中英樹：オアシスジャパン/1回) 「新市場での事業化とアイデア創出について」 車両販売の中でも、早期から福祉車両に焦点をあてた発想や異業種（元教員）からの起業の経緯。また、医療関係職を集めた交流会を主催することで、本業とのシナジー効果をどのように事業に反映し、新しいサービスを創造しているか。 (34 清水努：清風庵/1回) 「新商品開発戦略による、地元貢献ビジネスについて」 「岡山のお土産＝きびだんご」というイメージが定着する中、新たなお土産スイーツ「岡山ロール」を発案（洋菓子テイストを盛り込んだ和菓子）。全国的にも取り上げられる人気スイーツに押し上げることに成功した、発想力とブランド戦略について。 (37 三宅崇之：和研ハーディ（株）/1回) 「ニッチ・ビジネスにおける事業展開について」 ニッチビジネスとは何か。「空間システム創造」をキーワードに、モノを収めることに関するニーズに対応する事業を起業した経緯、ユニークな経営理念とその浸透や職員教育方法。 (36 鴨井尚志：カモ井加工紙(株)/1回) 「市場開拓戦略（海外展開）、ブランド化、地域貢献」について 商品に新たな価値を付加することで大成功を収めた、市場開拓戦略について (35 宮下附一竜：宮下酒造(株)/1回) 「ブランド化戦略と地域活性化について」 ビール市場における新たな市場を開拓した経緯と、独歩のブランド戦略について。	
総合科目	総合研究Ⅰ	学生が設定しようとする研究テーマについて、先行研究の把握（論文抄読）とその要約・レビュー、実現可能な研究計画書の作成演習（倫理委員会での審査を含む研究手法の組み立てとその手順）を通じて、論文執筆演習を段階的に行う。 到達目標：①実際の研究テーマに沿った、先行研究の要約・レビューができる。②研究計画書の作成ができる。	
	総合研究Ⅱ	総合研究Ⅱでは、総合研究Ⅰでの執筆演習を受けて、実際に遂行中の研究精度を吟味し、研究結果を解釈しまとめる。各種専門領域別の担当指導教官の下、実施中の研究とその確認（研究計画の修正及び追加実験等の必要性）を段階的に行う。具体的には、学生が設定した研究テーマについて、①先行研究における要約の妥当性、②テーマに沿った疑問点、問題点及びそれに伴う仮説の適切性、③研究方法の透明性、④統計処理の有効性、⑤結果の解釈に伴う科学的根拠の信頼性等について議論し、研究の精度を高めていく。 到達目標：①論文の骨格を明確にする。②科学的根拠に基づいた研究結果の解釈ができる。	
	総合演習Ⅰ	これまでの様々な経験を振り返りながら、学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズとは何かについて、「気づき」を育て問題を特定化するために必要な感性を養い、「総合演習Ⅱ」での「気づき」を「アイデア」へと具体化する演習へと繋げていく。 到達目標：疑問や問題点を列挙し整理できる。	

	総合演習Ⅱ	「総合演習Ⅰ」の発展形として、これまでの学修成果を統合的に活用し、職業現場や地域生活が抱える課題やニーズを新しいサービスの形にしていくために、「気づき」（データの獲得）を「アイディア」へと具体化するアプローチ（法則性を見出す）を段階的に学んでいく。 到達目標：課題設定能力を身に付け、課題の解決に向けた活動を計画することができる。 ※「総合演習Ⅰ」を受講していない場合でも受講できるが、「総合演習Ⅰ」の受講が望ましい。	
	卒業論文	医療・福祉・介護などの現場や地域での実践を踏まえ、その中で見つけた課題をもとに、高い実践力と新しいサービスを創出する展開力を活かして、各分野の研究活動に積極的に取り組む。また、理学療法・作業療法における基本的な治療・訓練に関わる研究や、対象者の生活上の課題や地域生活における課題について、サービスの革新と新たなサービスを創出する職業現場に密着した研究体制を整え、対象者や地域社会に貢献できる研究に取り組み卒業論文にまとめる。	

学校法人本山学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				岡山専門職大学				大学新設(認可申請)
				健康科学部				
				理学療法学科	80	-	320	
				作業療法学科	40	-	160	
				計	120	-	480	
西日本調理製菓専門学校				西日本調理製菓専門学校				
総合調理専攻科(2年制)	40	-	80	総合調理専攻科(2年制)	40	-	80	
調理師科(1年制)	80	-	80	調理師科(1年制)	80	-	80	
パティシエ・プランジェ科(2年制)	40	-	80	パティシエ・プランジェ科(2年制)	40	-	80	
スイーツ科(1年制)	80	-	80	スイーツ科(1年制)	80	-	80	
計	240	-	320	計	240	-	320	
岡山医療技術専門学校				岡山医療技術専門学校				
理学療法学科(3年制)	80	-	240		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
作業療法学科(3年制)	40	-	120		0	-	0	令和2年4月学生募集停止
医療事務学科(1年制)	40	-	40	医療事務学科(1年制)	40	-	40	
計	160	-	400	計	40	-	40	
インターナショナル				インターナショナル				
岡山歯科衛生専門学校				岡山歯科衛生専門学校				
歯科衛生学科(3年制)	48	-	144	歯科衛生学科(3年制)	48	-	144	
計	48	-	144	計	48	-	144	